

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	社会科学①		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室
<p>【授業の目的・ねらい】 JATI 認定トレーニング指導者 資格取得のために必要なトレーニング理論について学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要なトレーニングに関する知識の習得を図っていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 トレーニングの原則と効果について理解し、様々な目的および対象に応じたトレーニングプログラムを作成するうえで必要となる理論を習得し、また2年時以降に受験する JATI 認定トレーニング指導者資格試験に必要な知識の習得を到達目標とする。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 必要に応じてプリントを配布していく。</p> <p>【単位認定方法】 定期試験・出席状況・授業態度をふまえ評価する。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

1年（水）前期

社会科学①

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	ガイダンス	
2	6月10日	トレーニング指導者の役割	
3	6月17日	トレーニング計画の立案	
4	6月24日	トレーニング計画の立案	
5	7月1日	筋力トレーニングのプログラム作成	
6	7月8日	筋力トレーニングのプログラム作成	
7	7月15日	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	
8	7月22日	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	
9	7月29日	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	
10	8月5日	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	
11	8月19日	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	
12	8月26日	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	
13	9月2日	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成	
14	9月9日	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成	
15	9月23日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（水）後期

社会科学①

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	筋力トレーニングの実際	
2	10月21日	筋力トレーニングの実際	
3	10月28日	パワー向上トレーニングの実際	
4	11月4日	パワー向上トレーニングの実際	
5	11月11日	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際	
6	11月18日	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際	
7	11月25日	スピード向上トレーニングの実際	
8	12月2日	スピード向上トレーニングの実際	
9	12月9日	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際	
10	12月16日	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際	
11	12月23日	トレーニング効果の測定と評価の実際	
12	1月6日	トレーニング効果の測定と評価の実際	
13	1月13日	測定データの活用とフィードバックの実際	
14	1月20日	測定データの活用とフィードバックの実際	
15	2月3日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	社会科学②		授業担当者	重田 伸一 印	
配当年次・時期	1 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室
<p>【授業の目的・ねらい】 報倫理の基礎、表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作の習得</p> <p>【授業全体の内容の概要】 将来、企業などのエンドユーザや治療院等で、なくてはならない知識と技術である。 特に情報倫理の学習はネットワーク社会での被害者・加害者にならないためにも必要なスキルを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権法、情報倫理 ・表計算ソフトを使った集計グラフ等の作成 ・プレゼンテーションソフトを利用した自己紹介プレゼン <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 資格取得後、柔道整復師として接骨院などで勤務する際に、必要となる情報倫理の知識、およびワードやエクセルなどのパソコン技能の習得を到達目標とする。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 初めての著作権講座 プリント</p> <p>【単位認定方法】 出席 8 割と課題提出 実技テスト、課題の採点、定期考査（著作権法）による</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の 3 分の 2 以上の出席。 80 点以上の評価点に「A」、70～79 点の評価点に「B」、60～69 点の評価点に「C」 59 点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

1年（火）前期

社会科学②

担当 重田 伸一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	ガイダンス	HR
2	6月9日	Excel① 表計算ソフトの基礎	基礎医学実習室
3	6月16日	Excel② 表計算ソフトの基礎	基礎医学実習室
4	6月23日	Excel③ 表計算ソフトの基礎	基礎医学実習室
5	6月30日	Excel④ 表計算ソフトの基礎	基礎医学実習室
6	7月7日	Excel⑤ 表計算ソフトの基礎	基礎医学実習室
7	7月14日	Excel⑥ 表計算ソフトの基礎（小テスト）	基礎医学実習室
8	7月21日	PowerPoint① 基本操作 課題作成	基礎医学実習室
9	7月28日	PowerPoint② 基本操作 課題作成	基礎医学実習室
10	8月4日	PowerPoint③ 基本操作 課題作成・提出	基礎医学実習室
11	8月18日	著作権法①	HR
12	8月25日	著作権法②	HR
13	9月1日	著作権法③	HR
14	9月8日	著作権法④	HR
15	9月22日	テスト返し	HR

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	人文科学①		授業担当者	藤 京子 印		
配当年次・時期	1 学年	前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室	

【授業の目的・ねらい】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明できた人間の心理と行動についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことを目的とする。

【授業全体の内容の概要】

1. 心理学とは何か。
2. “こころ”とは？
3. 人間の発達の仕事みと発達的变化
4. 自己理解・自己受容
5. カウンセリングの基礎と実際

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

心理学の初歩的・基礎的理解を得ることができ、一般的な”こころ”の発達に重点を置いて理解を深めることができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

「心理学—行動の科学」 東京教学社

【単位認定方法】

最終試験・小レポート・授業態度・出席の総合評価とする

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（木）前期

人文科学①

担当 藤 京子

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	ガイダンス・自己成長エゴグラム	
2	6月11日	家族とは	
3	6月18日	家族形態の変化	
4	6月25日	日本の社会問題	
5	7月2日	アセスメント	
6	7月9日	カウンセリング・ロールプレイング	
7	7月16日	事例検討	
8	7月23日	「生きる」ことについて考える	DVD視聴
9	7月30日	エリザベス・キューブラー＝ロス	DVD視聴
10	8月6日	虐待について	DVD視聴
11	8月20日	防衛機制	
12	8月27日	ストレス	
13	9月3日	バーンアウト	
14	9月10日	前期試験 事前説明（1）	バウムテスト
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	人文科学②		授業担当者	藤 京子 印	
配当年次・時期	1 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>「認定トレーニング指導者」に合格すべき、「運動と心理」に関する基礎理論を学ぶ。 スポーツが、心理面にどのような影響を及ぼすのか、発達段階と関連があるのかについても知る。 前期の「心理学概論」に引き続き、更に内容を深めていく。 従って、「心理学概論2」として図表を用いながら幅広く心理学の世界を体感していく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>メンタルトレーニングや動機づけ等を学び、スポーツ選手の競技力向上へ活用することを学ぶ。 発達段階と、それぞれの年齢による発達課題について把握をする。 知覚・パーソナリティー・対人認知等についても、学習する。 グループディスカッションを通して、自分の考えを他者に伝えるという作業を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>前期の内容のさらなる理解に加え、スポーツと心理学との関連性についてその影響や 発展段階について理解できること。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>随時、必要な資料を配布する。</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>最終試験・小レポート・授業態度・出席の総合評価とする</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

1年（木）後期

人文科学②

担当 藤 京子

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	ガイダンス	ジョハリの窓
2	10月8日	運動と心理	
3	10月29日	発達心理学（乳幼児～児童期）	
4	11月5日	発達心理学（青年期～高齢期）	DVD視聴
5	11月12日	心の健康（メンタルヘルス）	
6	11月19日	メンタルについて 確認テスト	
7	11月26日	動機づけ（やる気・モチベーション）①	DVD視聴
8	12月3日	動機づけ（やる気・モチベーション）②	自己効力感心理テスト
9	12月10日	摂食障害とスポーツ 確認テスト	
10	12月17日	発達障害	DVD視聴
11	12月24日	人間関係	製作
12	1月7日	パーソナリティとは	
13	1月14日	知覚	DVD視聴
14	1月21日	試験対策	
15	2月4日	試験返却・試験解説	DVD視聴

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	保健体育		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	柔道場 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道の持つ特性をふまえ、3年時の実技認定試験に必要な基礎的な技能の習得を図ります。さらに、それらの技能習得を通じ、礼儀、順法といった精神修養も図っていきたいと思います。基本的には二人一組での対人実技が中心となります。個人差（技術、体力、経験、性、その他）を考慮して授業を進めていきます。

【授業全体の内容の概要】

1. 礼法（立礼・座礼）
2. 準備体操、回転運動
3. 受身（後受身・横受身・前回受身）
4. 投技（打込、投込、乱取）
5. 整理体操

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道の礼法、受身、および基礎的な投技の習得を到達目標とする。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道衣

【単位認定方法】

実技試験・出席状況・授業態度をふまえ評価する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（木）前期

保健体育

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	ガイダンス	
2	6月11日	礼法（立礼・座礼）	柔道衣
3	6月18日	後受身・横受身	柔道衣
4	6月25日	前回受身・膝車	柔道衣
5	7月2日	大腰	柔道衣
6	7月9日	膝車（移動しながら）	柔道衣
7	7月16日	一本背負投、大腰（移動しながら）	柔道衣
8	7月23日	一本背負投（移動しながら）	柔道衣
9	7月30日	背負投	柔道衣
10	8月6日	背負投（移動しながら）	柔道衣
11	8月20日	釣込腰	柔道衣
12	8月27日	体落・送足払	柔道衣
13	9月3日	釣込腰（移動しながら）	柔道衣
14	9月10日	実技試験	柔道衣
15	9月24日	試験解説・まとめ	

授業内容日程表

1年（木）後期

保健体育

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	前期復習、体落（移動しながら）	柔道衣
2	10月8日	大外刈	柔道衣
3	10月29日	大内刈	柔道衣
4	11月5日	小内刈	柔道衣
5	11月12日	大外刈（移動しながら）	柔道衣
6	11月19日	大内刈（移動しながら）	柔道衣
7	11月26日	小内刈（移動しながら）	柔道衣
8	12月3日	連絡技（大内刈から体落）	柔道衣
9	12月10日	連絡技（小内刈から背負投）	柔道衣
10	12月17日	連絡技（大内刈から大外刈）	柔道衣
11	12月24日	連絡技（大内刈から小内刈）	柔道衣
12	1月7日	連絡技（背負投から大内刈）	柔道衣
13	1月14日	払腰・内股	柔道衣
14	1月21日	実技試験	柔道衣
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	職業倫理		授業担当者	高場 彩 印
配当年次・時期	1 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数 15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室 206 教室

【授業の目的・ねらい】

職業倫理とは、特定(専門)の職業を生業としている個人や組織団体(職能団体等)が、その職業において社会的責任や役割を果たすために必要とされる行動の規範や基準であると考えられている。医療を志す者は、その資格創設の経緯から職種としての倫理観を強く意識してきた歴史がある。前期に引き続き、医療の歴史に触れながら、柔道整復師という職種の歴史にも触れる。その中で、われわれ柔道整復師が医療従事者としての使命を全うするために必要なことは何なのか、それぞれの心の内の気づきを得てほしい。

【授業全体の内容の概要】

前期の医学史に引き続き、PowerPointを利用した授業を行う。広く中世以降の医学史を取り上げた後、3年次に授業を受ける社会保障制度について広く学ぶ。柔道整復師の扱う医療制度が、日本の社会保障制度の中のどこに位置するかを確認する。

また、柔道整復師の学校協会発行のテキストを参考に、考えるべきケーススタディを取り上げ、自身が柔道整復師として患者を前にどのような対応が可能であるかを考える。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復師専門職に必要な倫理性を獲得する。

また実践における倫理的問題に対する判断能力と解決能力を獲得する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ・ 授業時プリント配布

【単位認定方法】

- ・ 成績評価は下記の基準に従って総合的に評価する。
 1. 授業への出席、ならびに授業への取り組み態度に対する評価
 2. 学習課題に対するレポートの提出および内容評価
 3. 定期試験による評価
- ・ 出席が授業実施時数の3分の2以上であること

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（月）後期

職業倫理

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	中世の医学①（解剖学の革命）	プリント
2	10月12日	中世の医学②（血液循環、麻酔）	プリント
3	10月19日	中世の医学③（顕微鏡・細胞・組織）	プリント
4	11月2日	中世の医学④（疫病）	プリント
5	11月9日	日本の医学（解体新書以前）	プリント
6	11月16日	日本の医学（解体新書以降）	プリント
7	11月30日	日本の医学（柔道整復師の歴史）	プリント
8	12月7日	社会保障を学ぶ理由・医療保険制度	プリント
9	12月14日	雇用保険制度・労働者災害補償保険制度	プリント
10	12月21日	年金保険・介護保険・生活保護制度	プリント
11	1月4日	社会手当制度・社会福祉・柔道整復師の制度	プリント
12	1月18日	職業倫理	プリント
13	1月25日	試験前まとめ	
14	2月8日	試験返却・試験解説	
15	2月9日	総括	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	医学史		授業担当者	高場 彩 印	
配当年次・時期	1 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

医の歴史を学ぶことにより、これから目指そうとする医療人を多角的かつ広い視野から捉え、医療とは何かといったその本質を考える素地とすることを目的とする。

医学・医療の歴史は人類の営みの歴史ともいえ、また文化の交流史、発展史そのものといっても過言ではない。病との格闘の中で培われた先人たちの叡智に触れながら、現代までの流れを概観する。

【授業全体の内容の概要】

これまでの学校教育で学んできた社会科「歴史」という流れを追いながら、医の歴史を並列の関係に追っていく。自分の知っている「ある過去」という時代に生きた人間たちが、生死をどのようにとらえ、医に取り組んだかをPowerPointによる画像データおよび解説により学んでいく。その中には、医とは関係のないように見える思想史も含む。医は思想の上に立つものである。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

学んだ知識を総括し、医学を学ぶ上での医学史の重要性を認識する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ・授業時プリント配布

【単位認定方法】

- ・成績評価は下記の基準に従って総合的に評価する。
 1. 授業への出席、ならびに授業への取り組み態度に対する評価
 2. 学習課題に対するレポートの提出および内容評価
 3. 定期試験による評価
- ・出席が授業実施時数の3分の2以上であること

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（月）前期

医学史

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	人類の起源（先史時代）①	
2	6月8日	人類の起源（先史時代）②	
3	6月15日	世界4大文明	
4	6月22日	古代ギリシアの医学	
5	6月29日	古代ギリシアの医学者ヒポクラテス	
6	7月6日	古代ローマの医学 ガレノス	
7	7月13日	古代中国の医学	
8	7月20日	日本の医学（先史時代～古代）	
9	7月27日	日本の医学（古代①）	
10	8月3日	日本の医学（古代②）	
11	8月17日	日本の医学（古代③）	
12	8月24日	日本の医学（古代④）	
13	8月31日	日本の医学（古代⑤・中世・近世）	
14	9月7日	試験前まとめ	
15	9月21日	試験返却・解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	解剖学①		授業担当者	永田 英二 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義、演習・実技・実習			使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道整復師として医療の一端を担うにあたり、必要な人体の構造（かたち、つくり、しくみ）を徹底的に考察する姿勢を身につけ、それを習得することを目的とする。

【授業全体の内容の概要】

1. 人体を構成する要素について学び、個々の構成成分が一定の形態を保ち、そのうえで相互に機能を分担していることを学習する。
2. 人体各部の区分と名称および体位や運動方向を示す用語について学習する。
3. 運動器としての骨の役割を理解する。次いで骨の形、構造や存在位置について学び、それらが人体の中でどのように組み立てられているか理解する。
加えて関節や靭帯についても学習する。
4. 筋にはどのような種類があり、どこに存在し、どのように機能しているかを理解する。また骨格筋の起始・停止や筋の形態が様々な運動に対応していることを学習する。
5. 外界や身体内部からの情報を受け取り、秩序ある生命活動として個体を営むために個体内の諸組織・器官および器官系を連絡し調整する神経系について学習する。またそれらを連絡する連絡路や様式についても学習する。
6. 感覚受容器の位置、形態・構造、機能について学習し、刺激が神経の興奮として脳で知覚されるまでの経路について学習する。
7. 人体は形態上しばしば大きな個体差を有することを念頭に置く。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

上記1～6履修内容について一定の理解と知識を有すること。

【使用テキスト・参考文献・教材】

相磯貞和 ネット解剖学アトラス 南江堂 永田英二 解剖生理学 ヘルス・システム研究所
 伊藤隆 解剖学講座 南山堂 三木成夫 生命形態の自然誌 解剖学論集 うぶすな書院
 坂井建雄、河原克雅 カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社
 プロメテウス解剖学 コア アトラス 医学書院

【単位認定方法】 1. 授業への出席、ならびに授業への取り組み態度に対する評価

2. 学習課題に対するレポートの提出および内容評価
3. 不定期の小テストによる評価
4. 定期試験による評価

【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」
 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（火）前期

解剖学①

担当 永田 英二

	日付	授業内容	使用物品
1	6月2日	解剖学総論	
2	6月9日	細胞形態と内部構造	
3	6月16日	細胞周期・細胞分裂	
4	6月23日	組織と器官（系）	
5	6月30日	頭蓋を構成する骨	
6	7月7日	脊柱・胸郭を構成する骨	
7	7月14日	上肢の骨	
8	7月21日	上肢の関節	
9	7月28日	下肢の骨	
10	8月4日	下肢の関節	
11	8月18日	頭・頸・胸部の筋	
12	8月25日	腹部・背部の筋	
13	9月1日	上肢の筋	
14	9月8日	下肢の筋	
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（火）後期

解剖学①

担当 永田 英二

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	神経系総論	
2	10月13日	中枢神経系の外観	
3	10月20日	脳室系と髄液・髄膜	
4	10月27日	脳の構造と機能	
5	11月10日	脳幹の構造と機能	
6	11月17日	脊髄の構造と区分	
7	11月24日	下行性伝導路	
8	12月1日	上行性伝導路	
9	12月8日	上行性伝導路（特殊感覚）	
10	12月15日	脳神経の構造と機能	
11	12月22日	脊髄神経の構造と機能	
12	1月5日	脊髄神経の構造と機能	
13	1月12日	自律神経	
14	1月19日	自律神経	
15	2月2日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	解剖学②		授業担当者	高橋 慎一 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

- 1 . 人体を構成している細胞や組織の構造を理解した上で、生命の営みの元である諸器官の構造を総合的に理解する。
- 2 . 臨床の場で求められる解剖とは、個々の器官についての知識だけでなく、周囲の構造物との関わり、すなわち局所解剖であることを理解する。

留意項目：

ヒトは工業製品とは異なり、すべてのヒトがまったく同じ構造を持っているわけではない。あくまで統計的に多い構造を学習しているだけであり、人体の構造にはかなりの個人差があることを常に意識すること。

【授業全体の内容の概要】

人体を構成する器官系のうち、
脈管系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・感覚器系・内分泌系について学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

人体の諸器官の構造や形態について理解し、さらに系統として俯瞰できるとともに局所の器官および周辺組織に対する理解ができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

解剖学 (社) 全国柔道整復学校協会監修
配布プリント

【単位認定方法】

- ① 定期実技試験にて60点以上
 - ② 出席が授業実施時間の2/3以上
- 上記を共に満たした学生に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（金）前期

解剖学②

担当 高橋 慎一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	脈管系1	教科書
2	6月12日	脈管系2	教科書
3	6月19日	脈管系3	教科書
4	6月26日	脈管系4	教科書
5	7月3日	脈管系5	教科書
6	7月10日	脈管系6	教科書
7	7月17日	脈管系7	教科書
8	7月24日	脈管系8	教科書
9	7月31日	消化器系1	教科書
10	8月7日	消化器系2	教科書
11	8月21日	消化器系3	教科書
12	8月28日	消化器系4	教科書
13	9月4日	消化器系5	教科書
14	9月11日	消化器系6	教科書
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（金）後期

解剖学②

担当 高橋 慎一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	呼吸器系1	教科書
2	10月9日	呼吸器系2	教科書
3	10月16日	呼吸器系3	教科書
4	10月23日	泌尿器系1	教科書
5	11月6日	泌尿器系2	教科書
6	11月13日	泌尿器系3	教科書
7	11月20日	生殖器系1	教科書
8	11月27日	生殖器系2	教科書
9	12月4日	生殖器系3	教科書
10	12月11日	生殖器系4	教科書
11	12月18日	感覚器系1	教科書
12	12月25日	感覚器系2	教科書
13	1月8日	感覚器系3	教科書
14	1月15日	感覚器系4・内分泌系1	教科書
15	2月5日	試験返却・試験解説 J3卒業発表	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	生理学①		授業担当者	福島 正也 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

生理学では、人体の正常機能とその仕組みについて学習する。

学習を通じ、柔道整復師国家試験および臨床に応用できる知識を習得する。

【授業全体の内容の概要】

生理学の基礎として、人体を構成する細胞の構造と機能、物質移動について学習する。

人体において情報の伝達・統合を行う神経系の機能と仕組みについて学習する。

筋の機能とその仕組みについて学習する。

血液の成分とその機能について学習する。

血液の循環について学習する。

ガス交換（呼吸）の仕組みについて学習する。

消化器系が飲食物を分解し、吸収する仕組みについて学習する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

人体の生理機能の基礎および上記の履修内容について概要を把握し人体生理機能のイメージを掴むと共に国家試験出題レベルの理解につながる知識を習得する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

全国柔道整復学校協会 監修. 生理学（改定第3版）. 南江堂.

配布資料（プリント）

【単位認定方法】

試験に基づき評価を行う。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（火）前期

生理学①

担当 福島 正也

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	オリエンテーション、生理学の基礎（1）	
2	6月9日	生理学の基礎（2）	
3	6月16日	神経の基本的機能（1）	
4	6月23日	神経の基本的機能（2）	
5	6月30日	神経の基本的機能（3）	
6	7月7日	神経系の機能（1）	
7	7月14日	神経系の機能（2）	
8	7月21日	神経系の機能（3）	
9	7月28日	神経系の機能（4）	
10	8月4日	神経系の機能（5）	
11	8月18日	神経系の機能（6）	
12	8月25日	筋肉の機能（1）	
13	9月1日	筋肉の機能（2）	
14	9月8日	筋肉の機能（3）	
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（火）後期

生理学①

担当 福島 正也

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	血液の生理学（1）	
2	10月13日	血液の生理学（2）	
3	10月20日	血液の生理学（3）	
4	10月27日	循環の生理学（1）	
5	11月10日	循環の生理学（2）	
6	11月17日	循環の生理学（3）	
7	11月24日	循環の生理学（4）	
8	12月1日	呼吸の生理学（1）	
9	12月8日	呼吸の生理学（2）	
10	12月15日	呼吸の生理学（3）	
11	12月22日	消化と吸収（1）	
12	1月5日	消化と吸収（2）	
13	1月12日	消化と吸収（3）	
14	1月19日	消化と吸収（4）	
15	2月2日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	基礎柔道整復学 1		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院で臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、以下について学習する。

- ①柔道整復師の歴史を学ぶ
- ②柔道整復学を学習するための基礎的な知識を学ぶ
- ③柔道整復師の業務内容について学ぶ
- ④骨の損傷について基礎的なことを学ぶ

【授業全体の内容の概要】

- ①柔道整復学を教科書の項目に沿って学習する
- ②プリントを配布し、理解しながら進行する
- ③シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・ 2 年次に行う骨折の各論を理解するのに必要な基礎知識を身につける。
- ・ 柔道整復師の沿革や業務範囲について基本的な内容を理解して柔道整復師としての素養を身につける。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学（理論編）改訂第 6 版

【単位認定方法】

- ①定期試験 60 点以上
 - ②出席が授業実施時数の 3 分の 2 以上であること
- 上記の条件を全て満たす学生に単位を認定する
※授業時間内に実施する小テストの結果を加味する

【成績評価方法・基準】

授業日数の 3 分の 2 以上の出席。

80 点以上の評価点に「A」、70～79 点の評価点に「B」、60～69 点の評価点に「C」

59 点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（金）前期

基礎柔道整復学 1

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	ガイダンス及び概説	教科書
2	6月12日	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領	教科書
3	6月19日	人体に加わる力・損傷時に加わる力	教科書
4	6月26日	骨の損傷（骨の形態と機能）	教科書
5	7月3日	骨損傷の概説	教科書
6	7月10日	骨損傷の分類 1	教科書
7	7月17日	骨損傷の分類 2	教科書
8	7月24日	骨折の症状（局所症状）	教科書
9	7月31日	骨折の症状（全身症状）	教科書
10	8月7日	骨折の合併症（併発症・続発症）	教科書
11	8月21日	骨折の合併症（続発症）	教科書
12	8月28日	骨折の合併症（後遺症）	教科書
13	9月4日	前期小テスト	教科書
14	9月11日	前期総括	教科書
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（金）後期

基礎柔道整復学 1

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	前期の復習	教科書
2	10月9日	小児骨折の特徴 1	教科書
3	10月16日	小児骨折の特徴 2	教科書
4	10月23日	高齢者骨折の特徴 1	教科書
5	11月6日	高齢者骨折の特徴 2	教科書
6	11月13日	骨折の癒合日数	教科書
7	11月20日	骨折の治癒経過 1	教科書
8	11月27日	骨折の治癒経過 2	教科書
9	12月4日	骨折の予後	教科書
10	12月11日	骨折の治癒に影響を与える因子	教科書
11	12月18日	後期小テスト	
12	12月25日	痛みの基礎 1	教科書
13	1月8日	痛みの基礎 2	教科書
14	1月15日	後期総括	教科書
15	2月5日	試験返却・試験解説 J3卒業発表	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	基礎柔道整復学②		授業担当者	霞 孝行 印
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数 30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	206 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る整形外科病院、接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、運動器における関節損傷および筋、腱、末梢神経、血管、リンパ系、皮膚の損傷について一般的・基礎的な理解とその処置について学ぶ。

また、各損傷に対する組織治癒課程についても理解する。

【授業全体の内容の概要】

教科書およびシラバスに準じて行なう。

必要に応じて資料配布し進行度合いにより授業を調整する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

各論において個別の損傷を履修する前に脱臼・関節損傷・筋損傷・腱損傷および神経損傷について、その構造と機能を解剖学とは別な側面で理解し各損傷の概要を把握できている。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編

【単位認定方法】

- ① 学期末試験において60点以上取得。
 - ② 出席が授業実施数の3分の2以上であること。
- 上記①・②を満たした学生に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（月）前期

基礎柔道整復学②

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	関節の構造と機能①	柔道整復学・理論編
2	6月8日	関節の構造と機能②	柔道整復学・理論編
3	6月15日	脱臼①	柔道整復学・理論編
4	6月22日	脱臼②	柔道整復学・理論編
5	6月29日	脱臼③	柔道整復学・理論編
6	7月6日	関節損傷①	柔道整復学・理論編
7	7月13日	関節損傷②	柔道整復学・理論編
8	7月20日	関節損傷③	柔道整復学・理論編
9	7月27日	関節損傷④	柔道整復学・理論編
10	8月3日	関節損傷⑤	柔道整復学・理論編
11	8月17日	筋の損傷①	柔道整復学・理論編
12	8月24日	筋の損傷②	柔道整復学・理論編
13	8月31日	筋の損傷③	柔道整復学・理論編
14	9月7日	筋の損傷④・総括	柔道整復学・理論編
15	9月21日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（月）後期

基礎柔道整復学②

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	腱の損傷①	柔道整復学・理論編
2	10月12日	腱の損傷②	柔道整復学・理論編
3	10月19日	腱の損傷③	柔道整復学・理論編
4	11月2日	腱の損傷④	柔道整復学・理論編
5	11月9日	末梢神経損傷①	柔道整復学・理論編
6	11月16日	末梢神経損傷②	柔道整復学・理論編
7	11月30日	末梢神経損傷③	柔道整復学・理論編
8	12月7日	末梢神経損傷④	柔道整復学・理論編
9	12月14日	血管・リンパ系・皮膚の損傷	柔道整復学・理論編
10	12月21日	皮膚損傷②	柔道整復学・理論編
11	1月4日	軟部組織損傷 まとめ①	柔道整復学・理論編
12	1月18日	軟部組織損傷 まとめ②	柔道整復学・理論編
13	1月25日	軟部組織損傷 まとめ③	柔道整復学・理論編
14	2月8日	試験返却・試験解説	柔道整復学・理論編
15	2月9日	※月曜日調整日 2/9（火）授業あり	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	基礎柔道整復学③		授業担当者	田代 洋司 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	206 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>長年にわたる整形外科病院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、柔道整復師の仕事内容である、診察、整復、固定、後療、指導管理、外傷予防についての基礎を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>前期は柔道整復学の教科書の項目に沿って学習し、必要な部分は実技をまじえる。 後期は臨床で診察をする上で重要になるものを実技で行う。 シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>柔道整復における損傷の治療・評価および指導・管理について学ぶが、1年次で履修するため実際の臨床現場での内容を十分理解することは困難であるため、前期において臨床現場の大まかな流れと使用する機器について理解し、後期において治療方法の一般原則について理解できる。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>①定期試験にて60点以上取得すること ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること</p> <p>上記①～②を満たした学生に単位を認定する なお、成績判定には出席状況と授業態度を考慮に入れる</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

1年（水）前期

基礎柔道整復学③

担当 田代 洋司

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	柔道整復師の仕事	柔道整復学（理論編）
2	6月10日	診察	柔道整復学（理論編）
3	6月17日	骨折の整復法	柔道整復学（理論編）
4	6月24日	脱臼の整復法	柔道整復学（理論編）
5	7月1日	軟部組織損傷の初期治療	柔道整復学（理論編）
6	7月8日	前期・前半まとめ	柔道整復学（理論編）
7	7月15日	固定法	柔道整復学（理論編）
8	7月22日	手技療法	柔道整復学（理論編）
9	7月29日	運動療法	柔道整復学（理論編）
10	8月5日	物理療法①	柔道整復学（理論編）
11	8月19日	物理療法②	柔道整復学（理論編）
12	8月26日	指導管理	柔道整復学（理論編）
13	9月2日	外傷予防	柔道整復学（理論編）
14	9月9日	前期・後半まとめ	柔道整復学（理論編）
15	9月23日	試験返却・試験解説	柔道整復学（理論編）

授業内容日程表

1年（水）後期

基礎柔道整復学③

担当 田代 洋司

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	実技・可動域測定（ROM測定）①	白衣
2	10月21日	実技・可動域測定（ROM測定）②	白衣
3	10月28日	実技・可動域測定（ROM測定）③	白衣
4	11月4日	実技・可動域測定（ROM測定）④	白衣
5	11月11日	実技・可動域測定（ROM測定）⑤	白衣
6	11月18日	実技・可動域測定（ROM測定）⑥	白衣
7	11月25日	実技・可動域測定 総復習	白衣
8	12月2日	可動域測定 実技テスト	白衣
9	12月9日	実技・徒手筋力測定（MMT測定）①	白衣
10	12月16日	実技・徒手筋力測定（MMT測定）②	白衣
11	12月23日	実技・徒手筋力測定（MMT測定）③	白衣
12	1月6日	実技・徒手筋力測定（MMT測定）④	白衣
13	1月13日	実技・徒手筋力測定 総復習	白衣
14	1月20日	徒手筋力測定 実技テスト	白衣
15	2月3日	実技・松葉杖の使い方	白衣

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技①		授業担当者	須藤 竜夫 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道整復師の業務である骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷を施術する際には、整復位の保持や患部の安静などを目的として固定法、患部の治癒過程を促進する後療法がある。その中で固定法を中心とした講義を行う。特に包帯法は柔道整復師の業務では固定法の基礎となり、外傷を扱う上で重要な役割を占めます。この講義では様々な固定法を学び、固定法の重要性を正しく理解し実際に行うことができることを目的とする。

【授業全体の内容の概要】

長年にわたる接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った骨折・脱臼・打撲・捻挫等の外傷への整復や固定、後療法に関する技術・知識を土台に授業を展開し、包帯固定学の基礎知識とその実技を中心に行う。包帯法は主に巻軸包帯を用いて各関節や患部を想定して、基本・冠名包帯法等を学ぶ。固定法は柔道整復師が従より使用してきた固定材を用いた固定法の実技を行う。また、近年使用されている固定材の特徴や使用方法などについて学習する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

包帯の取り扱い方法や各種衛生材料の名称や役割などの知識、各基本包帯の名称や包帯の走行について実施可能なレベルで習得されている。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①包帯固定学 全国柔道整復学校監修 南江堂
- ②各種包帯セット

【単位認定方法】

- ①定期実技試験で60点以上所得する
 - ②出席が2/3以上であること
- 上記①～②を満たした学生に単位を認定する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（水）前期

柔道整復実技①

担当 須藤 竜夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	ガイダンス・固定法の総論	教科書・実技バッグ
2	6月10日	固定材料の説明・固定具の種類について	教科書・実技バッグ
3	6月17日	包帯の巻き方と注意事項	教科書・実技バッグ
4	6月24日	基本包帯法	教科書・実技バッグ
5	7月1日	基本包帯法	教科書・実技バッグ
6	7月8日	基本包帯法	教科書・実技バッグ
7	7月15日	基本包帯法	教科書・実技バッグ
8	7月22日	基本包帯法	教科書・実技バッグ
9	7月29日	冠名包帯法	教科書・実技バッグ
10	8月5日	冠名包帯法	教科書・実技バッグ
11	8月19日	冠名包帯法	教科書・実技バッグ
12	8月26日	冠名包帯法	教科書・実技バッグ
13	9月2日	冠名包帯法	教科書・実技バッグ
14	9月9日	実技試験	教科書・実技バッグ
15	9月23日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（水）後期

柔道整復実技①

担当 須藤 竜夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	部位別包帯法	教科書・実技バッグ
2	10月21日	部位別包帯法	教科書・実技バッグ
3	10月28日	部位別包帯法	教科書・実技バッグ
4	11月4日	部位別包帯法	教科書・実技バッグ
5	11月11日	部位別包帯法	教科書・実技バッグ
6	11月18日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
7	11月25日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
8	12月2日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
9	12月9日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
10	12月16日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
11	12月23日	応用包帯法	教科書・実技バッグ
12	1月6日	実技試験②	教科書・実技バッグ
13	1月13日	まとめ	教科書・実技バッグ
14	1月20日	まとめ	教科書・実技バッグ
15	2月3日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技①		授業担当者	霞・田村 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数（単位数）	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室
<p>【授業の目的・ねらい】 骨折、脱臼、捻挫、打撲を取り扱う際の後療法の一つとして患部及び周辺部の筋肉、関節に対するマッサージを効果的に、また安全に行うための基本を習得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ① 各手技の目的、効果、注意点等の説明 <li style="padding-left: 20px;">② 手技のデモンストレーション <li style="padding-left: 20px;">③ 二人組で実践しながら確認、指導、反復 2 各手技を用いて各部位での実践 3 慢性疼痛、陳旧性疼痛への指圧、オイルマッサージ、運動療法（ストレッチ） <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 柔整後療法としての各基本手技の理解と実践ができ、実際の施術において実施する際の身体各部位のランドマークや方法、注意事項について理解している。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 タルク マッサージオイル 資料・教材は都度、適宜配布</p> <p>【単位認定方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 定期実技試験にて60点以上 ② 出席が授業実施時間の2/3以上 <p>上記を共に満たした学生に単位を認定する。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

1年（木）前期

臨床柔道整復実技①

担当 霞・田村

No.	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	マッサージの目的、注意、手技について。軽擦法	タオル
2	6月11日	軽擦法各手技（上肢）	タオル、タルク
3	6月18日	軽擦法各手技（下肢）	タオル、タルク
4	6月25日	強擦法、揉捏法 各手技	タオル、タルク
5	7月2日	揉捏法 各手技（上肢）	タオル、タルク
6	7月9日	揉捏法 各手技（下肢）	タオル、タルク
7	7月16日	叩打法 各手技	タオル、タルク
8	7月23日	振戦法、圧迫法 各手技	タオル、タルク
9	7月30日	上肢（上腕～手指） 各手技	タオル、タルク
10	8月6日	下肢前面 各手技	タオル、タルク
11	8月20日	伏臥位（うつ伏せ） 全体手技 + 母指圧	タオル
12	8月27日	仰臥位（あおむけ） 全体手技 + 母指圧	タオル
13	9月3日	予備（反復練習、質問など）	タオル、タルク
14	9月10日	前期実技試験	タオル、タルク
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

1年（木）後期

臨床柔道整復実技①

担当 霞・田村

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	指圧、オイルマッサージについて目的、効果、注意。 座位指圧	タオル
2	10月8日	座位指圧	タオル
3	10月29日	伏臥位 上肢・体幹（頸、肩、背部）指圧各手技	タオル
4	11月5日	伏臥位 体幹（腰背、臀部）指圧各手技	タオル
5	11月12日	伏臥位下肢（大腿後面～足底）指圧各手技	タオル
6	11月19日	伏臥位（大腿前面～足背足趾）指圧各手技	タオル
7	11月26日	ハンド、首 オイルマッサージ	マッサージオイル、タオル
8	12月3日	下肢後面（膝窩～足底）オイルマッサージ	マッサージオイル、タオル
9	12月10日	下肢前面（膝～足背足趾）オイルマッサージ	マッサージオイル、タオル
10	12月17日	オイルマッサージ復習	マッサージオイル、タオル
11	12月24日	指圧復習、ヘッドマッサージ	タオル
12	1月7日	運動療法、ストレッチ	タオル
13	1月14日	反復練習、質問等	マッサージオイル、タオル
14	1月21日	後期実技試験	マッサージオイル、タオル
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技4		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	1 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 1 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

- ①柔道整復師の施術において基本的な技術となる触診・体表解剖を学ぶ
- ②患者への触り方、触る強さについて学ぶ
- ③基本的な骨、筋の触診を学び臨床に必要な技術を習得する

【授業全体の内容の概要】

- ①解剖学を学び、触診につながる知識を得る
- ②体表から触れることが出来る骨の触診を行う
- ③前期は主に上肢・体幹部の触診を行う。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・上肢、体幹部を中心に素早く、正確に、適切な圧で骨や筋の触診をできるようにして、より正確な評価を行えるようになることを目指す。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①解剖学（改訂第2版）
- ②配布資料

【単位認定方法】

- ①試験合計60点以上
 - ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること
- 上記の条件を全て満たす学生に単位を認定する
※欠席により点数を減点する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（金）前期

臨床柔道整復実技4

担当 関口 将一

	日付	授業内容	使用物品
1	6月5日	ガイダンス	配布資料
2	6月12日	解剖学の基礎（触診する骨や筋を学ぶ）	教科書
3	6月19日	骨の触診（体幹部）頸椎～腰椎	教科書・配布資料・白衣
4	6月26日	骨の触診（体幹部）骨盤、胸部、肋骨	教科書・配布資料・白衣
5	7月3日	筋の触診（体幹部）頸部～腰部	教科書・配布資料・白衣
6	7月10日	筋の触診（体幹部）骨盤、胸部、腹部	教科書・配布資料・白衣
7	7月17日	前期試験1（体幹部）	白衣
8	7月24日	骨の触診（上肢）肩甲骨、鎖骨	教科書・配布資料・白衣
9	7月31日	骨の触診（上肢）上腕骨、前腕骨	教科書・配布資料・白衣
10	8月7日	骨の触診（上肢）手根骨、手骨	教科書・配布資料・白衣
11	8月21日	筋の触診（上肢）肩部	教科書・配布資料・白衣
12	8月28日	筋の触診（上肢）上腕部、前腕部	教科書・配布資料・白衣
13	9月4日	筋の触診（上肢）手部	教科書・配布資料・白衣
14	9月11日	前期試験2（上肢）	白衣
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技5		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	1 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 1 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

- ①柔道整復師の施術において基本的な技術となる触診・体表解剖を学ぶ
- ②患者への触り方、触る強さについて学ぶ
- ③基本的な骨、筋の触診を学び臨床に必要な技術を習得する

【授業全体の内容の概要】

- ①解剖学を学び、触診につながる知識を得る
- ②体表から触れることが出来る骨の触診を行う
- ③後期は主に下肢の触診を行う。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

・下肢を中心に素早く、正確に、適切な圧で骨や筋の触診をできるようにして、さらに動脈拍動部を正確に触知することでより正確な評価を行えるようになることを目指す。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①解剖学（改訂第2版）
- ②配布資料

【単位認定方法】

- ①試験合計60点以上
 - ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること
- 上記の条件を全て満たす学生に単位を認定する
※欠席により点数を減点する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

1年（金）後期

臨床柔道整復実技5

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	前期の復習	
2	10月9日	骨の触診（下肢）大腿骨	教科書・配布資料・白衣
3	10月16日	筋の触診（下肢）大腿部	教科書・配布資料・白衣
4	10月23日	骨の触診（下肢）下腿骨	教科書・配布資料・白衣
5	11月6日	筋の触診（下肢）下腿部	教科書・配布資料・白衣
6	11月13日	骨の触診（下肢）足部、足趾	教科書・配布資料・白衣
7	11月20日	筋の触診（下肢）足部	教科書・配布資料・白衣
8	11月27日	後期試験1（下肢）	白衣
9	12月4日	靭帯の触診（上肢）	教科書・配布資料・白衣
10	12月11日	靭帯の触診（下肢）	教科書・配布資料・白衣
11	12月18日	動脈拍動部の触診	教科書・配布資料・白衣
12	12月25日	後期試験2（靭帯、動脈拍動部）	白衣
13	1月8日	1年間の総復習1	教科書・配布資料・白衣
14	1月15日	1年間の総復習2	教科書・配布資料・白衣
15	2月5日	試験返却・試験解説 J3卒業発表	

科目名	臨床実習 1		授業担当者	霞 孝行 印
履修学年・履修期	1 年・通年	時間数 (単位数)	45 (1)	使用教室 臨床実習施設

[実習の目的]

柔道整復師として臨床における実践能力および保険の仕組みに関する知識を習得し患者との適切な対応を学び、施術者としての責任と自覚を養う。

目的：接骨院での仕事を理解し、患者と接する。

- ・挨拶や身だしなみ、守秘義務や業務について説明し実際の業務を見学。
- ・施術内容や物理療法機器の説明。
- ・院内整理や片付けなどを行う。

目的：物理療法機器の正しい知識と使用方法を学ぶ。

前期の実習内容が自主的に行えるか。

- ・患者の誘導
- ・物理療法機器を実際に体験し使用方法を学ぶ。
- ・最低限必要な体表上のランドマークの理解。

[実習の方法]

柔道整復師の施術に関し座学および実技・演習等で教授される内容を基に、実際の臨床現場において実習指導者の下で柔道整復師の一般的業務並びに基礎的・応用的実習を行う。

[評価]

身だしなみや言葉、態度を身に着け時間を守る。

学生間および院内において人間関係を築ける。

指導者に指示を仰ぎ行動できる。

患者や業務に対し責任ある行動ができる。

院内（院外）の会話において患者のプライバシーの保護に留意できる。

物理療法機器の効果や禁忌が理解する。

以上の到達目標について評価し単位を認定する。

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	解剖学③		授業担当者	高場 彩 印
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数
				30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

1年次に終了した解剖学の内容と生理学の内容を結び付け、1歩深めた知識の取得を目標とする。とくに、柔道整復師が取り扱うのは筋・骨格系の傷病であるから、基礎となる解剖学のその分野は手を抜くことができない。

苦手意識から脱却するためにも、繰り返しの学習の必要性を感じてほしい。

【授業全体の内容の概要】

①授業前に毎回10問の4択問題を解く。解答用紙は毎回提出していただき、前期末試験および後期末試験の点数に加算し評価に加味する。

②前期中に1回、後期中に1回の中間試験を行う。毎回行う授業前テスト範囲および授業で進んだ範囲から出題する。こちらの点数も前期末試験および後期末試験の点数に加算し評価に加味する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復師国家試験の出題基準を理解し、国家試験合格という目標に向け、自身で勉強計画を立てることができる。今後どのくらいの勉強量が必要かを自覚することができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ・解剖学教科書
- ・生理学教科書
- ・授業プリント

【単位認定方法】

- ・出席が授業実施時数の3分の2以上により、期末試験の受験を可能とする
- ・期末試験の点数に、授業前テストの点数、中間試験の点数を合計する
合計した点数の6割で合格とするとする

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（金）前期

解剖学③

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	末梢神経・脳神経（p 238～245）	神経系
2	6月12日	脳神経（p 239～245）	神経系
3	6月19日	脳神経（p 239～245）	神経系
4	6月26日	脊髄神経（p 245～250）	神経系
5	7月3日	脊髄神経（p 245～250）	神経系
6	7月10日	脊髄神経（p 250～255）胸神経～陰部神経叢	神経系
7	7月17日	中間試験	
8	7月24日	脊髄神経（p 250～255）胸神経～陰部神経叢	神経系
9	7月31日	細胞周期・細胞分裂・組織の分類・胚葉由来（p 8～10、p 15～16）	神経系
10	8月7日	骨の性質・構造・発生・連結（p 21～28）	神経系
11	8月21日	脊柱・椎間板・関節（p 28～33）	神経系
12	8月28日	頭蓋骨・顎関節（p 59～70）	神経系
13	9月4日	頭蓋骨・顎関節（p 59～70）	神経系
14	9月11日	頭蓋骨・顎関節（p 59～70）	神経系
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（金）後期

解剖学③

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	胸郭・肩甲骨（p 33～37）	消化器
2	10月9日	上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・指骨（p 38～46）	消化器
3	10月16日	寛骨・骨盤（p 46～50）	消化器
4	10月23日	大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足根骨（p 50～59）	消化器
5	11月6日	頭部の筋・骨（p 76～78、p 59～70）	消化と吸収
6	11月13日	頸部の筋・骨（p 78～81、p 59～70）	消化と吸収
7	11月20日	胸部の筋・骨（p 81～84、p 33～37）	脈管系（動脈）
8	11月27日	腹部の筋・骨（p 84～88、p 33～37）	脈管系（動脈）
9	12月4日	中間試験	
10	12月11日	背部の筋・骨（p 88～91、p 28～33）	脈管系（静脈）
11	12月18日	上肢帯の筋・骨（p 92～95、p 37～40）	脈管系（静脈）
12	12月25日	上腕の筋・骨（p 95～97、p 38～46）	脈管系（リンパ系）
13	1月8日	前腕の筋・骨（p 97～107、p 38～46）	血液の生理学
14	1月15日	下肢帯の筋・骨（p 107～111、p 46～51）	血液の生理学
15	2月5日	試験返却・試験解説 J 3 卒業発表	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	生理学②		授業担当者	福島 正也 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	205 教室	

【授業の目的・ねらい】

生理学では、人体の機能とその仕組みについて学習する。

また、上記の学習を通じ、国家試験および臨床に応用できる知識を習得する。

【授業全体の内容の概要】

人体が栄養素を取り入れ、代謝する仕組みについて学習する。

体温調節の仕組みについて学習する。

尿の生成とその排泄の仕組みについて学習する。

体液の調整の仕組みについて学習する。

内分泌系の働きと調節の仕組みについて学習する。

ヒトの生殖の仕組みについて学習する。

人体の感覚受容器の仕組みについて学習する。

骨の機能について学習する。

高齢者の生理学的特徴・変化について学習する。

競技者の生理学的特徴・変化について学習する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

1年次に続き上記項目について国家試験問題レベルでの知識の習得と理解。

【使用テキスト・参考文献・教材】

全国柔道整復学校協会 監修. 生理学（改定第3版）. 南江堂.

配布資料（プリント）

【単位認定方法】

試験に基づき評価を行う。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（火）前期

生理学②

担当 福島 正也

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	栄養素と代謝（1）	
2	6月9日	栄養素と代謝（2）	
3	6月16日	栄養素と代謝（3）	
4	6月23日	体温とその調節（1）	
5	6月30日	体温とその調節（2）	
6	7月7日	尿の生成と排泄（1）	
7	7月14日	尿の生成と排泄（2）	
8	7月21日	尿の生成と排泄（3）	
9	7月28日	体液の生理学（1）	
10	8月4日	体液の生理学（2）	
11	8月18日	内分泌系の機能（1）	
12	8月25日	内分泌系の機能（2）	
13	9月1日	内分泌系の機能（3）	
14	9月8日	内分泌系の機能（4）	
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（火）後期

生理学②

担当 福島 正也

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	生殖（1）	
2	10月13日	生殖（2）	
3	10月20日	生殖（3）	
4	10月27日	生殖（4）	
5	11月10日	感覚の生理学（1）	
6	11月17日	感覚の生理学（2）	
7	11月24日	感覚の生理学（3）	
8	12月1日	感覚の生理学（4）	
9	12月8日	感覚の生理学（5）	
10	12月15日	骨の生理学	
11	12月22日	骨の生理学	
12	1月5日	高齢者の生理学的特徴・変化（1）	
13	1月12日	高齢者の生理学的特徴・変化（2）、競技者の生理学的特徴・変化（1）	
14	1月19日	競技者の生理学的特徴・変化（2）	
15	2月2日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	一般臨床医学		授業担当者	山口 智 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義、演習・実技・実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

一般臨床医学の総論について学習する。

具体的な診察の方法、チェックポイント等を学習し、患者の病態把握、診断等を理解する。

柔道整復師として、必要な診療体系を習得する

【授業全体の内容の概要】

一般臨床医学の総論

診察概論 (意義、進め方)

問診、視診、打診、聴診、触診

生命徴候、感覚検査、反射検査

代表的な臨床症状

検査法

上記の項目について、実技実習を含めて行なう。

【授業終了時の達成課題 (到達目標)】

柔道整復師として求められる診察方法について理解し、実技実習において一定の手技レベルに達すること。

【使用テキスト・参考文献・教材】

一般臨床医学 改訂第3版

補助資料

【単位認定方法】

出席と授業に対する姿勢、試験により評価する。

必要に応じてレポートを提出を求める。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)

授業内容日程表

2年（火）前期

一般臨床医学

担当 山口 智

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	診察概論	教科書・配布資料
2	6月9日	問診	教科書・配布資料
3	6月16日	視診（1）	教科書・配布資料
4	6月23日	視診（2）	教科書・配布資料
5	6月30日	視診（3）	教科書・配布資料
6	7月7日	視診（4）	教科書・配布資料
7	7月14日	打診	教科書・配布資料
8	7月21日	聴診	教科書・配布資料
9	7月28日	触診（1）	教科書・配布資料
10	8月4日	触診（2）	教科書・配布資料
11	8月18日	触診（3）	教科書・配布資料
12	8月25日	触診（4）	教科書・配布資料
13	9月1日	触診（5）	教科書・配布資料
14	9月8日	総括	教科書・配布資料
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（火）後期

一般臨床医学

担当 山口 智

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	生命徴候（1）	教科書・配布資料
2	10月13日	生命徴候（2）	教科書・配布資料
3	10月20日	感覚検査（1）	教科書・配布資料
4	10月27日	感覚検査（2）	教科書・配布資料
5	11月10日	反射検査（1）	教科書・配布資料
6	11月17日	反射検査（2）	教科書・配布資料
7	11月24日	反射検査（3）	教科書・配布資料
8	12月1日	代表的な臨床症状（1）	教科書・配布資料
9	12月8日	代表的な臨床症状（2）	教科書・配布資料
10	12月15日	代表的な臨床症状（3）	教科書・配布資料
11	12月22日	代表的な臨床症状（4）	教科書・配布資料
12	1月5日	代表的な臨床症状（5）	教科書・配布資料
13	1月12日	検査	教科書・配布資料
14	1月19日	総括	教科書・配布資料
15	2月2日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	運動学①		授業担当者	山口 智 印	
配当年次・時期	2 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

日本の伝統医療である柔道整復に関する知識や技術を修得し、地域医療に貢献するためには、幅広い運動学の知識が必要となる。解剖学や生理学で学んでいる内容を統合し、さらに臨床に必要な項目について実技を通して体得する。

また、身体各部位の体表解剖も併せて体得することにより、高度な知識と技術を有する臨床家を育成する。

【授業全体の内容の概要】

1. 運動の表し方をはじめ身体各部位の関節運動を学ぶ。
また、歩行や発達についても学ぶが課題学習を含め運動学全般について指導する。
2. 授業内容により講義形式および実技室での実際の運動、さらにビデオ等の視聴覚教材も使用し実施する。
また、グループ学習を基本とし、体表解剖等、臨床に直結した内容で実施する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

解剖学で学ぶ形態解剖を基礎に運動学では機能解剖を中心に身体運動について習得し、生理学で学んだ神経の機能の延長して反射や姿勢保持、歩行などについて理解し習得する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

運動学 学校協会 編（医師薬出版）

基礎運動学 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著（医歯薬出版）※参考図書

【単位認定方法】

前期試験の結果を重視するが、出欠状況や実技学習の態度も極めて重要である。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（火）前期

運動学①

担当 山口 智

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	総論－運動学を学ぶために－	
2	6月9日	運動の表し方	
3	6月16日	肩関節の運動	
4	6月23日	肘関節の運動	
5	6月30日	手関節の運動	
6	7月7日	手指関節の運動	
7	7月14日	股関節の運動	
8	7月21日	膝関節・足関節の運動	
9	7月28日	頸椎・胸椎・胸郭および腰椎の運動	
10	8月4日	肩甲帯および顔面部の運動	
11	8月18日	歩行	
12	8月25日	歩行と運動発達・運動学習	
13	9月1日	身体運動と運動力学	
14	9月8日	反射と随意運動	
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	運動学②		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	2 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	205 教室	

【授業の目的・ねらい】

運動に関する身体の構造と機能の学習を通じ、柔道整復師として必要な基礎を築く。

【授業全体の内容の概要】

- ・骨、関節、筋、神経など人体の構造および機能について学ぶ。
- ・四肢と体幹の運動について学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

運動器の構造および機能、骨の運動学と解剖的な構造の仕組みに対する理解を柔道整復師として必要とされるレベルまで引き上げることを到達目標とする。

【使用テキスト・参考文献・教材】

教科書「運動学」改定第3版

基礎運動学 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著（医歯薬出版）※参考図書

【単位認定方法】

後期試験の結果で評価する。

出席は授業実施時数の3分の2以上を必要とする。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（火）後期

運動学②

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	ガイダンス	教科書
2	10月13日	骨の構造と機能	教科書
3	10月20日	関節の構造と機能	教科書
4	10月27日	骨格筋の構造と機能	教科書
5	11月10日	神経の構造と機能	教科書
6	11月17日	上肢帯の運動	教科書
7	11月24日	肩関節の運動	教科書
8	12月1日	肘、手、前腕の運動	教科書
9	12月8日	股関節の運動	教科書
10	12月15日	膝関節の運動	教科書
11	12月22日	足の運動	教科書
12	1月5日	体幹、脊柱の運動	教科書
13	1月12日	頸椎、胸椎、腰椎、胸郭、骨盤の運動	教科書
14	1月19日	顔面、頭部の運動	教科書
15	2月2日	試験返却・試験解説	教科書

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	外科学概論		授業担当者	磯部 秀之 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	205 教室	
<p>【授業の目的・ねらい】 外科学を全般的に学び、国家試験の合格につなげるとともに、 日常診療の場でもその知識を活かせるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 外科学全般 外傷やショック、麻酔や消毒など。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 外科的知識の詳細な理解は必要でないが、医療従事者として知るべき知識については 心肺蘇生法やショック、損傷や熱傷などを中心に理解し国家試験出題レベルの知識を習得。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 教科書は、南江堂の「外科学概論」改訂第4版（全国柔道整復学校協会監修）を使用。 他に必要な資料を適宜、プリント等で配布する。</p> <p>【単位認定方法】 出席と試験が基本。 他に必要に応じて、レポート提出。 出席は授業実施時数の3分の2以上とする。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

2年（木）前期

外科学概論

担当 磯部 秀之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	外科学とは	
2	6月11日	損傷、熱傷	
3	6月18日	炎症、外科感染症（1）	
4	6月25日	炎症、外科感染症（2）	
5	7月2日	腫瘍（1）	
6	7月9日	腫瘍（2）	
7	7月16日	ショック	
8	7月23日	輸血、輸液（1）	
9	7月30日	輸血、輸液（2）	
10	8月6日	消毒、滅菌	
11	8月20日	手術	
12	8月27日	麻酔（1）	
13	9月3日	麻酔（2）	
14	9月10日	移植	
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（木）後期

外科学概論

担当 磯部 秀之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	止血（1）	
2	10月8日	止血（2）	
3	10月29日	心肺蘇生法	
4	11月5日	意識障害、けいれん	
5	11月12日	頭部、顔面外傷	
6	11月19日	脳卒中	
7	11月26日	甲状腺・頸部疾患	
8	12月3日	胸壁・呼吸器疾患（1）	
9	12月10日	胸壁・呼吸器疾患（2）	
10	12月17日	心臓・脈管疾患（1）	
11	12月24日	心臓・脈管疾患（2）	
12	1月7日	乳腺疾患	
13	1月14日	腹部外科疾患（1）	
14	1月21日	腹部外科疾患（2）	
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道①		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ <u>実技</u> ・ 実習		使用教室	柔道場 教室	
<p>【授業の目的・ねらい】 柔道の持つ特性をふまえ、3年時の実技認定試験に必要な基礎的技能及び投の形の修得を図ります さらに、それらの技能修得を通じて、礼儀、遵法といった柔道整復師にとって必要な精神修養も 図っていききたいと思います。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 1. 礼法（立礼・座礼） 2. 準備体操・回転運動 3. 受身（後受身・横受身・前回受身） 4. 投技（打込、投込、乱取） 5. 整理体操</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1年次に修得した礼法、受身、投技の精度を上げ、更に3年次の認定実技審査で必要となる 投の形の習得を到達目標とする。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 柔道衣</p> <p>【単位認定方法】 実技試験・出席状況・授業態度をふまえ評価する。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

2年（木）前期

柔道①

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	1年時の復習（礼法、受身、投げ技）	柔道衣
2	6月11日	体落（前移動）	柔道衣
3	6月18日	体落、払腰（横移動）	柔道衣
4	6月25日	体落、払腰（横移動）	柔道衣
5	7月2日	出足払（前移動）	柔道衣
6	7月9日	出足払（後移動）	柔道衣
7	7月16日	大外刈（後移動）	柔道衣
8	7月23日	小内刈（後移動）	柔道衣
9	7月30日	小内刈（横移動）	柔道衣
10	8月6日	大外返	柔道衣
11	8月20日	大内返	柔道衣
12	8月27日	小内返（小内刈を膝車で返す）	柔道衣
13	9月3日	つばめ返	柔道衣
14	9月10日	実技試験	柔道衣
15	9月24日	試験解説・まとめ	

授業内容日程表

2年（木）後期

柔道①

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	投の形（浮落）	柔道衣
2	10月8日	投の形（浮落）	柔道衣
3	10月29日	投の形（背負投）	柔道衣
4	11月5日	投の形（背負投）	柔道衣
5	11月12日	投の形（浮腰）	柔道衣
6	11月19日	投の形（浮腰）	柔道衣
7	11月26日	投の形（払腰）	柔道衣
8	12月3日	投の形（払腰）	柔道衣
9	12月10日	投の形（釣込腰）	柔道衣
10	12月17日	投の形（釣込腰）	柔道衣
11	12月24日	投の形（送足払）	柔道衣
12	1月7日	投の形（送足払）	柔道衣
13	1月14日	投の形（支釣込足）	柔道衣
14	1月21日	実技試験	柔道衣
15	2月4日	試験解説・まとめ	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技②		授業担当者	原田 武彦 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205/実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道整復術では骨折・脱臼・捻挫・挫傷に対して、様々な固定法が検討されてきた。固定を行う材料にも進化し、それらを扱う上で知識の研鑽が必要になりつつある今日、平成30年度より行われた実技認定試験のカリキュラムの変更にも大きく審査内容が改変された。より実践的な内容になった審査内容に対応できるように、また実際の患者に対する確に施術を行えるよう、実技を中心として治療技術の研鑽を行うことを目的とする。

【授業全体の内容の概要】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った骨折・脱臼・打撲・捻挫等の外傷への整復や固定、後療法に関する技術・知識を基礎に授業展開を行っていく。

具体的には、1年次に習得した包帯法の復讐と固定材料の扱い方と、次年度に行われる実技認定試験の題目である、手指骨折・脱臼に対する副子固定、ミッテルドルフの三角副子固定、鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、膝関節捻挫、足関節捻挫に対するテーピング法の実践的な施術訓練を実技認定試験の合格を見据え行っていく。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

認定実技審査項目について固定器具の固定およびテーピングについて十分な習熟を求める。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ① 包帯固定学 全国柔道整復学校監修 南江堂
- ② 各種包帯セット
- ③ 各疾患に対して必要な固定具は学校で用意される
- ④ 各固定法に対してプリントを配布

【単位認定方法】

- ① 各項目で行われる実技試験で60点以上取得する
 - ② 出席が2/3以上であること
- 上記①～②を満たした学生に単位を認定する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（火）前期

柔道整復実技②

担当 原田 武彦

No.	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	体幹部の包帯法	
2	6月9日	体幹部の包帯法	
3	6月16日	上肢・下肢の包帯法	
4	6月23日	上肢・下肢の包帯法	
5	6月30日	クラメル副子の固定法	
6	7月7日	クラメル副子の固定法	
7	7月14日	クラメル副子の固定法	
8	7月21日	ボクサー骨折に対するアルフェンスシーネ固定	
9	7月28日	ボクサー骨折に対するアルフェンスシーネ固定	
10	8月4日	ボクサー骨折に対するアルフェンスシーネ固定	
11	8月18日	PIP関節背側脱臼に対するアルフェンスシーネ固定	
12	8月25日	PIP関節背側脱臼に対するアルフェンスシーネ固定	
13	9月1日	PIP関節背側脱臼に対するアルフェンスシーネ固定	
14	9月8日	ボクサー骨折・PIP関節背側脱臼固定の実技試験	
15	9月22日	前期の総括	

授業内容日程表

2年（火）後期

柔道整復実技②

担当 原田 武彦

No.	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	セイヤー絆創膏固定、ロバートジョーンズの絆創膏固定	
2	10月13日	セイヤー絆創膏固定、ロバートジョーンズの絆創膏固定	
3	10月20日	膝関節絆創膏固定（Xサポートテーピング）	
4	10月27日	膝関節絆創膏固定（Xサポートテーピング）	
5	11月10日	セイヤー絆創膏固定、ロバートジョーンズの絆創膏固定、膝関節絆創膏固定（Xサポートテーピング）の実技試験	
6	11月17日	足関節絆創膏固定（バスケットウィーヴ固定）	
7	11月24日	足関節絆創膏固定（バスケットウィーヴ固定）	
8	12月1日	足関節絆創膏固定（フィギャーエイト・ヒールロック）	
9	12月8日	足関節絆創膏固定（フィギャーエイト・ヒールロック）	
10	12月15日	足関節絆創膏固定（バスケットウィーヴ固定・フィギャーエイト、ヒールロック）の実技試験	
11	12月22日	ミッテルドルフの三角副子固定の作成	
12	1月5日	ミッテルドルフの三角副子固定の装着	
13	1月12日	ミッテルドルフの三角副子固定の装着	
14	1月19日	ミッテルドルフの三角副子固定の装着	
15	2月2日	ミッテルドルフの三角副子固定の実技試験	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学①		授業担当者	原田 武彦 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	205 教室	

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った骨折の整復・固定・後療法に関する技術・知識を基に授業を展開し、鎖骨、肩甲骨を含む上肢帯の骨折について学習を行う。骨折についての力学的視点を含んだ発生のメカニズムや臨床症状・整復法・固定法・後療法・後遺症・合併症や類似疾患などの知識を学習し、実際の臨床例を様々な角度から検討しながら、適切な処置を行えるような知識をつけることを目標とする。また、国家試験に対応できるようにポイントを注視させ対応できるようにする。

【授業全体の内容の概要】

鎖骨骨折、肩甲骨骨折、を含む上肢帯の骨折の診断法、処置法、後療法、予後（合併症を含む）について教科書に沿って講義を行う。各骨折の鑑別・診察にあたり必要な知識を身につけるために、資料やPower pointを用いて視覚的にもイメージしやすいように行い、国家試験のガイドラインだけにとらわれず臨床に役に立つ知識を身につけてもらう内容で講義を行っていく。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

上肢の骨折について国家試験出題ガイドラインレベルの知識習得に加え
実際の臨床において必要と思われる知識について習得する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

教科書：柔道整復理論 第5版（南江堂）

参考書：各授業にて参考資料を配布

骨折の臨床 改定3版（中外医学社）

柔道整復外傷学ハンドブック 上肢の骨折・脱臼（医道の日本社）

【単位認定方法】

- ①定期試験にて60点以上取得する
 - ②出席が授業実地時間の3分の2以上であること
 - ③指定された課題を提出する
- ①～③を満たした学生に単位を取得することを必須とする

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（月）前期

臨床柔道整復学①

担当 原田 武彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	鎖骨骨折についての概要を説明。臨床の立場に立って講義し、非観血的療法の利点と問題点について講義	教科書・プリント
2	6月8日	肩甲骨の各部位ごとの骨損傷について概要と問題点について講義	教科書・プリント
3	6月15日	上腕骨近位端部の骨損傷についての概要を説明、非観血的療法の利点と問題点について講義	教科書・プリント
4	6月22日	上腕骨外科頸骨折について、発生機序・症状・診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
5	6月29日	上腕骨骨幹部骨折について、その特徴と機能解剖を説明し、発生機序・症状（骨片転位を含む）について講義	教科書・プリント
6	7月6日	上腕骨骨幹部骨折につについて、整復法・固定法・後療法・合併症・及び観血的療法と、その限界点について講義	教科書・プリント
7	7月13日	上腕骨遠位端骨折について、その特徴と機能解剖について説明し、発生機序・症状（骨片転位を含む）について講義	教科書・プリント
8	7月20日	上腕骨顆上骨折について、発生機序・症状（骨片転位を含む）診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
9	7月27日	上腕骨顆上骨折について、整復法・固定法・後療法・合併症・後遺症及び非観血的療法の限界について講義	教科書・プリント
10	8月3日	上腕骨外顆骨折について発生機序・症状（骨片転位を含む）診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
11	8月17日	上腕骨外顆骨折について整復法・固定法・後療法・合併症・後遺症及び非観血的療法の限界について講義	教科書・プリント
12	8月24日	上腕骨内顆骨折について発生機序・症状・診断法・鑑別診断・治療法について講義	教科書・プリント
13	8月31日	橈骨近位端骨折について、発生機序・症状・診断法・鑑別診断・治療法について講義	教科書・プリント
14	9月7日	肘頭骨折について、その特徴と機能解剖を説明し、発生機序・症状（骨片転位を含む）について講義	教科書・プリント
15	9月21日	前期講義のまとめ	教科書・プリント

授業内容日程表

2年（月）後期

臨床柔道整復学①

担当 原田 武彦

	日付	授業内容	使用物品
1	10月5日	橈骨骨幹部骨折（前腕両骨骨折を含む）について発生機序・症状について講義	教科書・プリント
2	10月12日	橈骨骨幹部骨折（前腕両骨骨折を含む）について診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
3	10月19日	尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折について、発生機序・症状・診断法について講義	教科書・プリント
4	11月2日	橈骨遠位端部骨折（特にコーレス骨折）について特徴と機能解剖・発生機序・分類について講義	教科書・プリント
5	11月9日	橈骨遠位端部骨折（特にコーレス骨折）の後療法について講義	教科書・プリント
6	11月16日	その他の橈骨遠位端部骨折について特徴と機能解剖・発生機序・分類について合併症と問題点について講義	教科書・プリント
7	11月30日	舟状骨骨折について特徴を説明し、発生機序・症状（骨片転位）について講義	教科書・プリント
8	12月7日	舟状骨骨折の整復法・診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
9	12月14日	その他手根骨骨折の特徴を説明し、発生機序・症状（骨片転位を含む）について講義	教科書・プリント
10	12月21日	ボクサー骨折について発生機序・症状・診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
11	1月4日	基節骨骨折、中節骨骨折、末節骨骨折について発生機序・症状・診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
12	1月18日	マレットフィンガーについて発生機序・症状（骨片転位を含む）・診断法・鑑別診断について講義	教科書・プリント
13	1月25日	マレットフィンガーについて、整復法・固定法・後療法・合併症について講義	教科書・プリント
14	2月8日	手指骨折の後療法について講義	教科書・プリント
15	2月9日	試験返却・試験解説	教科書・プリント

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学②		授業担当者	田代 洋司 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る整形外科病院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、下肢の骨折について学ぶ
 上肢に比べ損傷程度が強大で合併損傷も重篤であることも多く、生命や予後に大きく関与するため損傷の発生や経過、保存療法の限界などを理解する

【授業全体の内容の概要】

柔道整復学の教科書の項目に沿って学習する。
 臨床上重要な内容は実技を交えて学習する。
 シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復師にとってあまり一般的でない骨折を含むが、頻度の高い骨折もあるため保存療法に限らず、各骨折がどのような治療を必要とするのかを理解し適応と限界を理解する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する。
 配布資料（プリント）

【単位認定方法】

- ①定期試験にて60点以上取得すること
- ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること

上記①②を満たした学生に単位を認定する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。
 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」
 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（水）前期

臨床柔道整復学②

担当 田代 洋司

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	下肢の骨折の特徴	柔道整復学（理論編）
2	6月10日	骨盤の解剖	柔道整復学（理論編）
3	6月17日	骨盤骨骨折	柔道整復学（理論編）
4	6月24日	股関節の解剖	柔道整復学（理論編）
5	7月1日	大腿骨近位部骨折①	柔道整復学（理論編）
6	7月8日	大腿骨近位部骨折②	柔道整復学（理論編）
7	7月15日	前期・前半まとめ	柔道整復学（理論編）
8	7月22日	大腿部の解剖・大腿骨骨幹部骨折	柔道整復学（理論編）
9	7月29日	膝関節の解剖	柔道整復学（理論編）
10	8月5日	大腿骨遠位端部骨折①	柔道整復学（理論編）
11	8月19日	大腿骨遠位端部骨折②	柔道整復学（理論編）
12	8月26日	下腿骨近位部の骨折①	柔道整復学（理論編）
13	9月2日	下腿骨近位部の骨折②	柔道整復学（理論編）
14	9月9日	前期・後半まとめ	柔道整復学（理論編）
15	9月23日	試験返却・試験解説	柔道整復学（理論編）

授業内容日程表

2年（水）後期

臨床柔道整復学②

担当 田代 洋司

	日付	授業内容	使用物品
1	10月7日	膝蓋骨骨折	柔道整復学（理論編）
2	10月21日	下腿部の解剖	柔道整復学（理論編）
3	10月28日	下腿骨骨幹部の骨折①	柔道整復学（理論編）
4	11月4日	下腿骨骨幹部の骨折②	柔道整復学（理論編）
5	11月11日	足関節の解剖	柔道整復学（理論編）
6	11月18日	下腿骨遠位部の骨折①	柔道整復学（理論編）
7	11月25日	下腿骨遠位部の骨折②	柔道整復学（理論編）
8	12月2日	後期・前半まとめ	柔道整復学（理論編）
9	12月9日	距骨骨折	柔道整復学（理論編）
10	12月16日	踵骨骨折	柔道整復学（理論編）
11	12月23日	足部の解剖・足根骨の骨折	柔道整復学（理論編）
12	1月6日	中足骨の骨折	柔道整復学（理論編）
13	1月13日	足趾の骨折	柔道整復学（理論編）
14	1月20日	後期・後半まとめ	柔道整復学（理論編）
15	2月3日	試験返却・試験解説	柔道整復学（理論編）

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学 3		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った骨折・脱臼・打撲・捻挫等の外傷への整復や固定、後療法に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、以下の内容の理解を図る。

- ①上肢脱臼（鎖骨～手指）、下肢脱臼（股関節～足趾）、顎関節脱臼について理解する
- ②上記の内容について柔道整復師としての実際の臨床で使える知識を習得する

【授業全体の内容の概要】

- ①柔道整復学を教科書の項目に沿って学習する
- ②プリントを配布し、理解しながら進行する
- ③シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・上肢～下肢の脱臼について発生機序や症状、注意すべき合併症が理解できるようになる。
- ・基本的な整復方法や固定方法を理解し、正確に実施できるようになる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①柔道整復学（理論編）改訂第6版
- ②柔道整復学（実技編）改訂第2版

【単位認定方法】

- ①定期試験60点以上
 - ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること
- 上記の全てを満たす学生に単位を認定する
※小テストの成績を加味する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（木）前期

臨床柔道整復学 3

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	柔道整復学理論（総論）復習	教科書、配布資料
2	6月11日	胸鎖関節脱臼（発生機序～予後）	教科書、配布資料
3	6月18日	肩鎖関節脱臼（発生機序～後遺症）	教科書、配布資料
4	6月25日	肩関節脱臼（肩関節周囲解剖）	教科書、配布資料
5	7月2日	肩関節前方脱臼（概論～後遺症）	教科書、配布資料
6	7月9日	反復性肩関節脱臼（バンカート損傷、ヒルサックス損傷）	教科書、配布資料
7	7月16日	肩関節後方脱臼・下方脱臼・上方脱臼	教科書、配布資料
8	7月23日	肘関節脱臼（肘関節周囲解剖）	教科書、配布資料
9	7月30日	肘関節脱臼（発生機序～後療法）	教科書、配布資料
10	8月6日	肘内障（発生機序～治療法）	教科書、配布資料
11	8月20日	手関節脱臼（手関節周囲解剖）	教科書、配布資料
12	8月27日	遠位橈尺関節脱臼	教科書、配布資料
13	9月3日	手指脱臼（手指周囲解剖）	教科書、配布資料
14	9月10日	手根部、手指脱臼、前期小テスト	教科書、配布資料
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（木）後期

臨床柔道整復学3

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	前期の復習（問題演習）	教科書、配布資料
2	10月8日	顎関節脱臼（発生機序～後療法）	教科書、配布資料
3	10月29日	顎関節症 I～V型（概説～治療法）	教科書、配布資料
4	11月5日	股関節脱臼（股関節周囲解剖）	教科書、配布資料
5	11月12日	股関節後方脱臼（発生機序～整復法）	教科書、配布資料
6	11月19日	股関節前方脱臼、中心性脱臼	教科書、配布資料
7	11月26日	膝関節脱臼（膝関節周囲解剖）	教科書、配布資料
8	12月3日	膝関節脱臼（概説～後遺症）	教科書、配布資料
9	12月10日	膝蓋骨脱臼（概説～治療法）	教科書、配布資料
10	12月17日	足関節脱臼（足関節周囲解剖）	教科書、配布資料
11	12月24日	足関節脱臼（距腿関節脱臼）	教科書、配布資料
12	1月7日	足趾脱臼（足趾周囲解剖）	教科書、配布資料
13	1月14日	足趾脱臼（概説～治療法）	教科書、配布資料
14	1月21日	後期小テスト	教科書、配布資料
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学④		授業担当者	霞 孝行 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

長期に渡り勤務してきた整形外科病院、接骨院での臨床（実務）経験を通じ培われた柔道整復術に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、上肢の軟部組織損傷について学ぶ。

近年、軟部組織損傷に対する画像診断技術が進歩しているが臨床現場においては損傷の所見や徒手検査法の理解と取得が求められる。

疾患数も部位も多様であるため疾患名と病態を理解し、必要に応じて各種治療法に関しても触れる。

【授業全体の内容の概要】

取り扱う疾患数が多いため、理解を深めるために教科書の順番を離れることもある。

そのため、進行はシラバスと異なる場合もある。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

上肢軟部組織損傷として扱う疾患数が多いため、各疾患名と概要を理解し、近接部や類似する疾患等について区別と理解ができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編
配布資料（プリント）

【単位認定方法】

- ① 学期末試験において60点以上取得。
 - ② 出席が授業実施数の3分の2以上であること。
- 上記①・②を満たした学生に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（水）前期

臨床柔道整復学④

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	腱板断裂	柔道整復学・理論編
2	6月10日	上腕二頭筋長頭腱損傷	柔道整復学・理論編
3	6月17日	ベネット損傷・SLAP損傷	柔道整復学・理論編
4	6月24日	インピンジメント症候群・リトルリーガー肩	柔道整復学・理論編
5	7月1日	動揺性肩関節・肩甲上神経麻痺・腋窩神経麻痺	柔道整復学・理論編
6	7月8日	五十肩・その他の疾患	柔道整復学・理論編
7	7月15日	肘関節靭帯損傷・回旋不安定症	柔道整復学・理論編
8	7月22日	野球肘	柔道整復学・理論編
9	7月29日	野球肘・テニス肘・その他の疾患	柔道整復学・理論編
10	8月5日	前腕コンパートメント症候群・腱交叉症候群	柔道整復学・理論編
11	8月19日	円回内筋症候群	柔道整復学・理論編
12	8月26日	前骨間神経麻痺	柔道整復学・理論編
13	9月2日	後骨間神経麻痺（橈骨神経麻痺）	柔道整復学・理論編
14	9月9日	肘部管症候群	柔道整復学・理論編
15	9月23日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（水）後期

臨床柔道整復学④

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	三角線維軟骨損傷	柔道整復学・理論編
2	10月21日	ド・ケルバン病	柔道整復学・理論編
3	10月28日	手根管症候群	柔道整復学・理論編
4	11月4日	ギヨン管症候群	柔道整復学・理論編
5	11月11日	キーンベック病	柔道整復学・理論編
6	11月18日	マーデルング変形	柔道整復学・理論編
7	11月25日	指側副靭帯損傷	柔道整復学・理論編
8	12月2日	ロッキングフィンガー	柔道整復学・理論編
9	12月9日	ばね指	柔道整復学・理論編
10	12月16日	デュピトラン拘縮	柔道整復学・理論編
11	12月23日	ヘバーデン結節	柔道整復学・理論編
12	1月6日	ボタン穴変形・スワンネック変形	柔道整復学・理論編
13	1月13日	上肢軟部組織損傷 まとめ①	柔道整復学・理論編
14	1月20日	上肢軟部組織損傷 まとめ②	柔道整復学・理論編
15	2月3日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学⑤		授業担当者	霞 孝行	印
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

長期に渡り勤務してきた整形外科病院、接骨院での臨床（実務）経験を通じ培われた柔道整復術に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、下肢の軟部組織損傷について学ぶ。

上肢の軟部組織損傷に比し、一般的にはあまりなじみのない疾患も多く含まれているため、上肢と同様に疾患名と病態を必ず理解することが重要。

上肢と比べ下肢の損傷はその運動機能や日常生活動作、移動などが大きく制限を受けることが多く、外傷やスポーツによる発生だけではないため常に念頭に置く

【授業全体の内容の概要】

上肢と同様、疾患数が多いためシラバスの進行を外れることがある。

また、必要に応じて局所の機能解剖的理解のため内容が前後する場合がある。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

上肢と同様だが、一般に知られていない障害などもふくまれるため、各損傷・障害の概念をしっかりと理解し鑑別診断の必要あるものとの区別ができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編
配布資料（プリント）

【単位認定方法】

- ① 学期末試験において60点以上取得。
 - ② 出席が授業実施数の3分の2以上であること。
- 上記①・②を満たした学生に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（金）前期

臨床柔道整復学⑤

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	鼠径部痛症候群・股関節唇損傷	柔道整復学・理論編
2	6月12日	弾発股・梨状筋症候群	柔道整復学・理論編
3	6月19日	股関節拘縮	柔道整復学・理論編
4	6月26日	ペルテス病・単純性股関節炎	柔道整復学・理論編
5	7月3日	大腿骨頭すべり症・大腿骨頭壊死症	柔道整復学・理論編
6	7月10日	大腿部肉離れ・打撲・骨化性筋炎	柔道整復学・理論編
7	7月17日	半月板損傷	柔道整復学・理論編
8	7月24日	側副靭帯損傷	柔道整復学・理論編
9	7月31日	十字靭帯損傷	柔道整復学・理論編
10	8月7日	小児膝変形・オスグッド・ジャンパー膝	柔道整復学・理論編
11	8月21日	腸脛靭帯炎・鷲足炎	柔道整復学・理論編
12	8月28日	膝蓋大腿関節障害・滑液包炎	柔道整復学・理論編
13	9月4日	神経障害	柔道整復学・理論編
14	9月11日	前期 まとめ	柔道整復学・理論編
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（金）後期

臨床柔道整復学⑤

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	アキレス腱炎・アキレス腱断裂	柔道整復学・理論編
2	10月9日	下腿三頭筋肉離れ・シンスプリント	柔道整復学・理論編
3	10月16日	下腿コンパートメント症候群	柔道整復学・理論編
4	10月23日	足関節捻挫	柔道整復学・理論編
5	11月6日	捻挫類似疾患・腓骨筋腱脱臼	柔道整復学・理論編
6	11月13日	衝突性外骨腫・三角骨障害	柔道整復学・理論編
7	11月20日	三アキレス腱滑液包炎・有痛性外脛骨	柔道整復学・理論編
8	11月27日	踵骨棘・足底腱膜炎	柔道整復学・理論編
9	12月4日	足根管症候群	柔道整復学・理論編
10	12月11日	外反母趾・強剛母指	柔道整復学・理論編
11	12月18日	種子骨障害・モートン病	柔道整復学・理論編
12	12月25日	後期 まとめ①	柔道整復学・理論編
13	1月8日	後期 まとめ②	柔道整復学・理論編
14	1月15日	後期 まとめ③	柔道整復学・理論編
15	2月5日	試験返却・試験解説 J3卒業発表	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学⑥		授業担当者	田代 洋司 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る整形外科病院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、頭部・顔面および脊柱部の損傷を取り扱う。

ともに、生命に関わる合併症を伴うことから、最低限の診断知識を必要とする。

【授業全体の内容の概要】

柔道整復学の教科書の項目に沿って学習する。

临床上重要な内容は実技を交えて学習する。

シラバスは授業の進行度合いにより適宜調整する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

頭部・顔面・体幹・脊柱について、その解剖学的位置や構造、機能解剖について理解し各損傷の概要および内臓器損傷における所見についての理解が必要。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編
配布資料（プリント）

【単位認定方法】

- ① 学期末試験において60点以上取得。
 - ② 出席が授業実施数の3分の2以上であること。
- 上記①・②を満たした学生に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（水）前期

臨床柔道整復学⑥

担当 田代 洋司

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	頭部・顔面の解剖	柔道整復学（理論編）
2	6月10日	頭蓋冠骨折	柔道整復学（理論編）
3	6月17日	頭蓋底骨折	柔道整復学（理論編）
4	6月24日	顔面頭蓋骨折・頭部顔面部の軟部組織損傷	柔道整復学（理論編）
5	7月1日	頸椎の解剖	柔道整復学（理論編）
6	7月8日	頸椎の骨折	柔道整復学（理論編）
7	7月15日	前期・前半まとめ	柔道整復学（理論編）
8	7月22日	頸椎の脱臼	柔道整復学（理論編）
9	7月29日	頸部の軟部組織損傷①	柔道整復学（理論編）
10	8月5日	頸部の軟部組織損傷②	柔道整復学（理論編）
11	8月19日	頸部の注意すべき疾患①	柔道整復学（理論編）
12	8月26日	頸部の注意すべき疾患②	柔道整復学（理論編）
13	9月2日	頸部の注意すべき疾患③	柔道整復学（理論編）
14	9月9日	前期・後半まとめ	柔道整復学（理論編）
15	9月23日	試験返却・試験解説	柔道整復学（理論編）

授業内容日程表

2年（水）後期

臨床柔道整復学⑥

担当 田代 洋司

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	胸・背部の解剖	柔道整復学（理論編）
2	10月21日	肋骨・肋軟骨骨折①	柔道整復学（理論編）
3	10月28日	肋骨・肋軟骨骨折②	柔道整復学（理論編）
4	11月4日	胸骨骨折	柔道整復学（理論編）
5	11月11日	胸椎の骨折	柔道整復学（理論編）
6	11月18日	胸椎の脱臼・胸背部の軟部組織損傷	柔道整復学（理論編）
7	11月25日	後期・前半まとめ	柔道整復学（理論編）
8	12月2日	腰部・仙骨部の解剖	柔道整復学（理論編）
9	12月9日	腰椎の骨折と脱臼	柔道整復学（理論編）
10	12月16日	腰部の軟部組織損傷	柔道整復学（理論編）
11	12月23日	臨床でのその他の疾患	柔道整復学（理論編）
12	1月6日	後期・後半まとめ	柔道整復学（理論編）
13	1月13日	総復習①	柔道整復学（理論編）
14	1月20日	総復習②	柔道整復学（理論編）
15	2月3日	試験返却・試験解説	柔道整復学（理論編）

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技②		授業担当者	霞 孝行・原田 武彦 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

医用画像の一般的な理解と画像診断の基礎を学ぶ。

その中で柔道整復師が施術の補助として使用可能な超音波画像診断装置については

その原理や構造、各部位のランドマークの観察程度までを行う

後期においては各損傷を前提として観察を行う。

【授業全体の内容の概要】

授業開始直後は座学にて医用画像について学び、超音波の原理や構造まで学んだ後に実際の超音波機器を使用して各部位の骨性ランドマークの描出を行う。

また、各損傷においては観察される組織変化や異常を中心に病変を描出する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

各部位の解剖学的理解と超音波によって描出される構造の理解と正常組織の観察を通して正常から逸脱した病変の理解へ進むことができる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

入門 運動器の超音波観察法

入門 超音波観察法（実技編）

【単位認定方法】

授業実施数の3分の2以上の出席を必要とする。

学期末に実技試験を実施し60点以上の評価を必要とする。

以上を満たした者に単位を認定する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（月）前期

臨床柔道整復実技②

担当 霞 孝行・
原田 武彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	医用画像の基礎①	資料配布
2	6月8日	医用画像の基礎②	資料配布
3	6月15日	医用画像の基礎③	資料配布
4	6月22日	超音波による観察法の基礎①	資料配布
5	6月29日	超音波による観察法の基礎②	資料配布
6	7月6日	超音波による観察法の基礎③	資料配布
7	7月13日	超音波による観察の実際①（手関節・指）	資料配布
8	7月20日	超音波による観察の実際②（肘関節）	資料配布
9	7月27日	超音波による観察の実際③（肩関節）	資料配布
10	8月3日	超音波による観察の実際④（大腿～膝関節）	資料配布
11	8月17日	超音波による観察の実際⑤（アキレス腱）	資料配布
12	8月24日	超音波による観察の実際⑥（足関節）	資料配布
13	8月31日	前期実技試験	資料配布
14	9月7日	前期実技試験	資料配布
15	9月21日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（月）後期

臨床柔道整復実技②

担当 霞 孝行・
原田 武彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	肩関節周囲の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
2	10月12日	肩関節周囲の筋肉・靭帯を描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
3	10月19日	肘関節周囲の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
4	11月2日	肘関節周囲の筋肉・靭帯の描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
5	11月9日	手関節周囲の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
6	11月16日	手関節周囲の筋肉・靭帯の描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
7	11月30日	指関節の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
8	12月7日	指関節の筋肉・靭帯の描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
9	12月14日	膝関節周囲の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
10	12月21日	膝関節周囲の筋肉・靭帯の描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
11	1月4日	足関節周囲の筋肉・靭帯の描出手順について	プリントを配布
12	1月18日	足関節周囲の筋肉・靭帯の描出した画像の読影と病態について	プリントを配布
13	1月25日	講義のまとめ ①	プリントを配布
14	2月8日	試験返却・試験解説	
15	2月9日	講義のまとめ ②	プリントを配布

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技 3		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を基礎に授業を展開し、以下の内容について学習する。

1. 臨床現場で多く遭遇する外傷に対する応急処置を学ぶ。
2. 非伸縮テーピング、伸縮テーピングの使い方を学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

1. 応急処置の基礎を学ぶ。
2. 外傷に対する基本的なテーピングを学ぶ。
3. 状況に合わせた応用的なテーピングを学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

・テーピング固定をする上での注意点を正確に理解し、テーピングを正しく扱い、意図する固定が素早く、適切な強度で施せるようになる。

【使用テキスト・参考文献・教材】

1. 柔道整復学・実技編（改訂第2版）
2. 配布資料

【単位認定方法】

1. 実技試験60点以上
 2. 出席が授業実施時数の3分の2以上であること
- 上記のすべてを満たす学生に単位を認定する。
※欠席1回につき2点を減点する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

2年（月）前期

臨床柔道整復実技3

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	応急処置の基礎、テーピングの基礎	配布資料
2	6月8日	基本的な足関節テーピング固定1	配布資料・白衣
3	6月15日	基本的な足関節テーピング固定2	配布資料・白衣
4	6月22日	基本的な足関節テーピング固定3	配布資料・白衣
5	6月29日	基本的な足関節テーピング固定4	配布資料・白衣
6	7月6日	基本的な足関節テーピング固定5	配布資料・白衣
7	7月13日	急性期の足関節テーピング固定（バスケットウィーブ）1	配布資料・白衣
8	7月20日	急性期の足関節テーピング固定（バスケットウィーブ）2	配布資料・白衣
9	7月27日	回復期の足関節テーピング固定	配布資料・白衣
10	8月3日	足関節テーピング確認試験	配布資料・白衣
11	8月17日	手指・手関節テーピング固定	配布資料・白衣
12	8月24日	足趾・足底部テーピング固定1	配布資料・白衣
13	8月31日	足趾・足底部テーピング固定2	配布資料・白衣
14	9月7日	手部・足部テーピング確認試験	配布資料・白衣
15	9月21日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（月）後期

臨床柔道整復実技3

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	基本的な膝関節テーピング固定1	配布資料・白衣
2	10月12日	基本的な膝関節テーピング固定2	配布資料・白衣
3	10月19日	膝内側側副靭帯損傷テーピング固定	配布資料・白衣
4	11月2日	膝関節テーピング確認試験	配布資料・白衣
5	11月9日	投球障害肩に対するテーピング1	配布資料・白衣
6	11月16日	投球障害肩に対するテーピング2	配布資料・白衣
7	11月30日	投球障害肘に対するテーピング1	配布資料・白衣
8	12月7日	投球障害肘に対するテーピング2	配布資料・白衣
9	12月14日	肩関節・肘関節テーピング確認試験	配布資料・白衣
10	12月21日	下腿三頭筋損傷に対するテーピング	配布資料・白衣
11	1月4日	大腿二頭筋損傷に対するテーピング	配布資料・白衣
12	1月18日	下腿部・大腿部テーピング確認試験	配布資料・白衣
13	1月25日	1年間の総復習1	配布資料・白衣
14	2月8日	試験返却・試験解説	
15	2月9日	1年間の総復習2	配布資料・白衣

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	整形外科学		授業担当者	石井 利昌 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	205 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>整形外科の診療を理解する。 疾患を理解し、診断を考え、治療を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>教科書に沿って、スライドを使用した講義。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>運動器疾患を扱い上で、柔道整復の適応となるか否かの判断に際して整形外科学の知識は必須であり、柔道整復理論に準じるレベルでの知識や理解を必要とする。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>教科書 過去の国試問題</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>出席、授業態度、試験に基づき評価を行う。</p> <p>出席は授業実施時数の3分の2以上とする。</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

2年（木）前期

整形外科学

担当 石井 利昌

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	整形外科とは	教科書
2	6月11日	診察法①	教科書
3	6月18日	診察法②	教科書
4	6月25日	検査法①	教科書
5	7月2日	検査法②	教科書
6	7月9日	治療法①	教科書
7	7月16日	治療法②	教科書
8	7月23日	骨・関節損傷総論①	教科書
9	7月30日	骨・関節損傷総論②	教科書
10	8月6日	リハビリテーション総論	教科書
11	8月20日	各論・A感染性疾患・B骨軟部腫瘍	教科書
12	8月27日	C非感染性疾患	教科書
13	9月3日	D全身性の骨・軟部疾患	教科書
14	9月10日	E骨端症・F四肢循環障害	教科書
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

2年（木）後期

整形外科学

担当 石井 利昌

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	G神経・筋疾患①	教科書
2	10月8日	G神経・筋疾患②	教科書
3	10月22日	調整日	
4	10月29日	部位別各論、A体幹①	教科書
5	11月5日	A体幹②	教科書
6	11月12日	A体幹③	教科書
7	11月19日	B肩	教科書
8	11月26日	B上肢①	教科書
9	12月3日	B上肢②	教科書
10	12月10日	B上肢③	教科書
11	12月17日	C骨盤	教科書
12	1月7日	C下肢②	教科書
13	1月14日	C下肢③	教科書
14	1月21日	C下肢④	教科書
15	2月4日	試験返却・試験解説	

科目名	臨床実習 2		授業担当者	霞 孝行 印
履修学年・履修期	2年・通年	時間数(単位数)	90(2)	使用教室 臨床実習施設

[実習の目的]

柔道整復師として臨床における実践能力および保険の仕組みに関する知識を習得し患者との適切な対応を学び、施術者としての責任と自覚を養う。
2年次より、学外での救護活動による実習を開始する。

目的：指示を受けた具体的内容の理解。

- ・患者に使用する際の注意点を指導。
- ・正しく使用できるか確認する。
- ・指示に従い物理療法機器の付け外しを行える。
- ・救護現場において指導者の指示に従い行動できる。

目的：指導者の指示下で適切な行動ができる。

- ・患者の誘導から物理療法機器の付け外し、処置の補助や患者とのコミュニケーションなど指導内容に加え自主的に関わる。
- ・救護現場において指導者の指示に従い行動できる。

[実習の方法]

柔道整復師の施術に関し座学および実技・演習等で教授される内容を基に、実際の臨床現場において実習指導者の下で柔道整復師の一般的業務並びに基礎的・応用的実習を行う。

救護活動を通して実際のケガや対応について実践し学ぶ。

[評価]

物理療法機器の取り扱いができる。

患者に不安や不快を与えない行動ができる。

適切な場所に機器の取り付けができる。

患者の訴えを理解できる。

患者の立場に立ち考え、行動できる。

損傷や症状の理解を深めている。

以上の到達目標について評価し単位を認定する。

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	衛生学・公衆衛生学		授業担当者	佐々木 皓平 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数（単位数）	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	204 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>健康の維持・増進を目的に、国民衛生に関するあらゆる事項についての制度、その成り立ちを理解し、予防法を学び、しかも実践できる能力を身に付ける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>健康の維持・増進を目的に、国民衛生に関するあらゆる事項についての制度、その成り立ちを理解し、予防法を学び、しかも実践できる能力を身に付ける。広げていく講義となる。従って非常に多義にわたる結果になる。知ることが多くなるが極身近なことであるから、興味を持って聞けば納得できよう。</p> <p>国家試験の過去問題等を必ず提供し、何が大切かをその都度喚起する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>公衆衛生について国会試験出題レベルでの理解と知識を有し国民衛生ならび各制度や予防法、健康増進について理解している。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 『衛生学・公衆衛生学』 配布資料</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>出席と授業に対する姿勢、試験により評価する。 必要に応じてレポートを提出を求める。</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

3年（水）前期

衛生学・公衆衛生学

担当 佐々木 皓平

	日付	授業内容	使用物品
1	6月3日	当科の目的、憲法25条、健康、予防医学等	
2	6月10日	人口静態統計（人口、人口構成、国勢調査等）	
3	6月17日	人口動態統計（出生率、再生産率等）	
4	6月24日	生活習慣病予防	
5	7月1日	母子保健	
6	7月8日	環境保険（上水道、下水道）	
7	7月15日	環境保険（地球環境破壊・空気・温熱等）	
8	7月22日	環境保険（公害等）	
9	7月29日	食品保険	
10	8月5日	成人・老人保健	
11	8月19日	産業保険（職業病）	
12	8月26日	感染症予防（病原体対策）	
13	9月2日	感染症予防（感染経路対策）	
14	9月9日	感染症予防（感受性対策）	
15	9月23日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（水）後期

衛生学・公衆衛生学

担当 佐々木 皓平

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	精神保健	
2	10月21日	地域保健と国際保険活動1	
3	10月28日	衛生行政	
4	11月4日	保健・医療制度1	
5	11月11日	保健・医療制度1	
6	11月25日	疫学	
7	12月2日	疫学調査法	
8	12月9日	疫学調査法	
9	12月16日	J 3 後期末試験兼卒業試験	
10	12月23日	国家試験対策	
11	1月6日	国家試験対策	
12	1月13日	国家試験対策	
13	1月20日	国家試験対策	
14	1月27日	国家試験対策	
15	2月3日	国家試験対策	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	病理学概論		授業担当者	佐々木 皓平 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

病理学の知識を習得することで、臨床の現場において病態をより正確にとらえ、病態の鑑別や適、不適応の判断によって、患者に対して高度な対処・治療が提供できるようになること。

【授業全体の内容の概要】

座学での講義。病態発症の原因、疾患が表す症状や所見、それらが生体内でどのようなメカニズムで構築されているかを学習する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

病理学の基礎的理解と病態の理解、各疾患における病気の発生と発展について理解できている。

【使用テキスト・参考文献・教材】

社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 『病理学概論 改訂第3版』
配布資料

【単位認定方法】

出席と授業に対する姿勢、試験により評価する。
必要に応じてレポートを提出を求める。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（水）前期

病理学概論

担当 佐々木 皓平

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	病理学とは	教科書・配布資料
2	6月10日	疾患の一般	教科書・配布資料
3	6月17日	細胞障害	教科書・配布資料
4	6月24日	細胞障害	教科書・配布資料
5	7月1日	細胞障害	教科書・配布資料
6	7月8日	循環障害	教科書・配布資料
7	7月15日	循環障害	教科書・配布資料
8	7月22日	循環障害	教科書・配布資料
9	7月29日	進行性病変と細胞・組織の適応	教科書・配布資料
10	8月5日	進行性病変と細胞・組織の適応	教科書・配布資料
11	8月19日	進行性病変と細胞・組織の適応	教科書・配布資料
12	8月26日	炎症	教科書・配布資料
13	9月2日	炎症	教科書・配布資料
14	9月9日	まとめ	教科書・配布資料
15	9月23日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（水）後期

病理学概論

担当 佐々木 皓平

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	免疫異常、アレルギー	教科書・配布資料
2	10月21日	腫瘍	教科書・配布資料
3	10月28日	腫瘍	教科書・配布資料
4	11月4日	先天性異常	教科書・配布資料
5	11月11日	先天性異常	教科書・配布資料
6	11月25日	病因	教科書・配布資料
7	12月2日	病因	教科書・配布資料
8	12月9日	総括	教科書・配布資料
9	12月16日	J 3 後期末試験兼卒業試験	教科書・配布資料
10	12月23日	総括	教科書・配布資料
11	1月6日	国家試験対策	教科書・配布資料
12	1月13日	国家試験対策	教科書・配布資料
13	1月20日	国家試験対策	教科書・配布資料
14	1月27日	国家試験対策	教科書・配布資料
15	2月3日	国家試験対策	教科書・配布資料

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	リハビリテーション医学①		授業担当者	磯部 秀之 印	
配当年次・時期	3 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学全般について学習する。 高齢化社会に伴い、リハビリテーションの需要はますます増大しているが、特にその必要性や重要性を十分理解し、患者のQOLの向上に寄与できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 リハビリテーション医学の概論 (定義・目的・対象等) 障害の種類やレベルについて 評価方法 (関節可動域、筋力、計測、日常生活動作、歩行、麻痺、協調性等) 治療 (理学療法、作業療法、義肢、装具、言語療法等) 治療各論 (脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺)</p> <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 上記内容について、国家試験出題レベルに応じた知識と理解。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 リハビリテーション医学 改訂第3版 (全国柔道整復学校協会監修) 南江堂 その他資料プリント</p> <p>【単位認定方法】 ・ 試験と出席で評価する。 ・ 出席は授業実施時数の3分の2以上とする。 ・ 必要に応じてレポートを提出してもらう。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)</p>					

授業内容日程表

3年（木）前期

リハビリテーション医学①

担当 磯部 秀之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	概論（定義・目的等について）	
2	6月11日	障害（1）	
3	6月18日	障害（2）	
4	6月25日	評価法（1）	
5	7月2日	評価法（2）	
6	7月9日	評価法（3）	
7	7月16日	評価法（4）	
8	7月23日	治療（1）	
9	7月30日	治療（2）	
10	8月6日	治療（3）	
11	8月20日	治療（4）	
12	8月27日	治療各論（1）	
13	9月3日	治療各論（2）	
14	9月10日	治療各論（3）	
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	リハビリテーション医学 2		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	3 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

- ①リハビリテーション医学についての歴史、基礎的な考え方を学ぶ。
- ②リハビリテーションの運動器に関わる範囲を学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- ①教科書、配布資料に沿って授業を進める。
- ②授業ごとに国家試験過去問題を解き、理解を深める。
- ③前期に履修するリハビリテーション医学①についての復習を行う。
- ④授業の内容は進行によって適宜調整する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・リハビリテーションの運動器に関わる部分を正確に理解し、機能訓練指導員としての正しい知識を身につける。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①教科書 リハビリテーション医学（改訂第3版）
- ②配布資料

【単位認定方法】

- ①定期試験60点以上
 - ②出席が授業実施時数の3分の2以上であること
- 上記の条件を全て満たす学生に単位を認定する
 ※授業時間内に実施する小テストの結果を加味する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（金）後期

リハビリテーション医学2

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	運動学と機能解剖（関節の運動～姿勢と歩行）	教科書・配布資料
2	10月9日	運動学と機能解剖（上肢、下肢の運動と機能解剖）	教科書・配布資料
3	10月16日	障害学（関節拘縮～共同運動パターン）	教科書・配布資料
4	10月23日	治療学（拘縮治療～痛みの治療）	教科書・配布資料
5	11月6日	前期の復習（リハビリテーションの概念）	教科書・配布資料
6	11月13日	前期の復習（評価と診断）	教科書・配布資料
7	11月20日	前期の復習（理学療法、作業療法）	教科書・配布資料
8	11月27日	前期の復習（日常生活動作）	教科書・配布資料
9	12月4日	後期小テスト	教科書・配布資料
10	12月11日	前期の復習（補装具）	
11	12月18日	後期末試験兼卒業試験	教科書・配布資料
12	12月25日	前期の復習（脳卒中）	教科書・配布資料
13	1月8日	前期の復習（脊髄損傷）	教科書・配布資料
14	1月15日	前期の復習（脳性麻痺）	教科書・配布資料
15	1月29日	リハビリテーション医学確認試験	教科書・配布資料

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道②		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	柔道場 教室

【授業の目的・ねらい】

1・2年で修得した柔道の集大成とし、実技認定試験合格に必要な礼法、技術を身につける。

【授業全体の内容の概要】

1. 礼法 (立礼・座礼)
2. 受身 (後受身・横受身・前回受身)
3. 投の形 (手技・腰技・足技)
4. 約束乱取

【授業終了時の達成課題 (到達目標)】

認定実技審査合格に必要な柔道実技の技能の習得および国家試験にて出題される柔道に関する知識の習得を到達目標とする。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道衣

【単位認定方法】

前期：実技試験・出席状況・授業態度をふまえ評価する。

後期：実技認定試験の結果で評価する。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)

授業内容日程表

3年（火）前期

柔道②

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	2年時の復習	柔道衣
2	6月9日	投の形（内股）	柔道衣
3	6月16日	投の形（内股）	柔道衣
4	6月23日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
5	6月30日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
6	7月7日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
7	7月14日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
8	7月21日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
9	7月28日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
10	8月4日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
11	8月18日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
12	8月25日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
13	9月1日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
14	9月8日	実技試験	柔道衣
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（火）後期

柔道②

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
2	10月13日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
3	10月20日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
4	10月27日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
5	11月10日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣
6	11月17日	問題演習	教科書・プリント
7	11月24日	問題演習	教科書・プリント
8	12月1日	問題演習	教科書・プリント
9	12月8日	問題演習	教科書・プリント
10	12月22日	問題演習	教科書・プリント
11	1月5日	問題演習	教科書・プリント
12	1月12日	問題演習	教科書・プリント
13	1月19日	問題演習	教科書・プリント
14	1月26日	問題演習	教科書・プリント
15	2月2日	問題演習	教科書・プリント

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	関係法規		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	3 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	204 教室	

【授業の目的・ねらい】

法律全般の概要を理解した後、柔道整復師法とその関連内容について学ぶ。

また、医師法、医療法などの医療に関わる関係法規についても、医療従事者として理解しておくべき内容について学習する。

【授業全体の内容の概要】

社会保障、社会保険制度、医療保険制度、療養費制度など社会保障制度の基本について学習していく。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復師として遵守することが必須となる柔道整復師法および関係法規について医療従事者として必要なレベルまで理解を深めることを到達目標とする。

【使用テキスト・参考文献・教材】

教科書「関係法規」改定第2版

【単位認定方法】

前期試験の結果で評価する。

出席は授業実施時数の3分の2以上を必要とする。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（金）前期

関係法規

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	法の意義・法の体系・インフォームド・コンセント	教科書
2	6月12日	柔道整復師法・総則	教科書
3	6月19日	柔道整復師法・免許	教科書
4	6月26日	柔道整復師法・柔道整復師国家試験	教科書
5	7月3日	柔道整復師法・業務	教科書
6	7月10日	柔道整復師法・施術所	教科書
7	7月17日	柔道整復師法・雑則、罰則	教科書
8	7月24日	柔道整復師法・その他	教科書
9	7月31日	医療従事者の資格法	教科書
10	8月7日	医療法	教科書
11	8月21日	その他関係法規	教科書
12	8月28日	問題演習	教科書
13	9月4日	問題演習	教科書
14	9月11日	問題演習	教科書
15	9月25日	試験返却・試験解説	教科書

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	社会保障		授業担当者	岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	3 学年 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道整復療養費の取り扱いを行う柔道整復師にとって、療養費制度はもちろんのこと、社会保障制度全般の知識を身につけることが重要である。そのことを踏まえ、療養費制度をはじめとし、社会保障制度の理解を深めることをねらいとする。

【授業全体の内容の概要】

社会保障、社会保険制度、医療保険制度、療養費制度など社会保障制度の基本について学習していく。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

社会保障の課題、仕組み、理念についての理解を柔道整復師にとって必要なレベルまで深め、また国家試験合格に必要な知識の習得を図ることを到達目標とする。

【使用テキスト・参考文献・教材】

教科書「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

【単位認定方法】

後期試験の結果で評価する。

出席は授業実施時数の3分の2以上を必要とする。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（金）後期

社会保障

担当 岡村 忠彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	社会保障とは	教科書
2	10月9日	社会保険制度とは	教科書
3	10月16日	公的年金制度	教科書
4	10月23日	介護保険	教科書
5	11月6日	社会福祉・公的扶助・公衆衛生	教科書
6	11月13日	医療保険の目的と意義	教科書
7	11月20日	保険診療の概要	教科書
8	11月27日	医療保険財政の現状と課題	教科書
9	12月4日	診療報酬制度	教科書
10	12月11日	療養費とは	教科書
11	12月18日	後期末試験兼卒業試験	
12	12月25日	柔道整復療養費	教科書
13	1月8日	柔道整復療養費の推移	教科書
14	1月15日	療養費の算定	教科書
15	1月29日	まとめ	教科書

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復術の適応		授業担当者	磯部 秀之 印	
配当年次・時期	3 学年 後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

柔道整復術は、その適否の判断が大変重要である。

その的確な判断と他の医療関係者との連携は、柔道整復師に求められているものである。

種々の疾患の鑑別、柔道整復術の適応について学び、診療に活かせるようにする。

【授業全体の内容の概要】

損傷に類似した症状を示す疾患などについて講義する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復が扱う損傷に類似した他科疾患の存在を理解し、鑑別が必要な病態についての知識と医療機関との連携について理解する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

教科書は、南江堂の「医療の中の柔道整復」（全国柔道整復学校協会監修）を使用。

他に必要な資料を適宜、プリント等で配布する。

【単位認定方法】

出席と試験が基本。

他に必要に応じて、レポート提出。

出席は授業実施時数の3分の2以上とする。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（木）後期

柔道整復術の適応

担当 磯部 秀之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	柔道整復術の適否を考える	
2	10月8日	損傷に類似した症状を示す疾患	
3	10月29日	損傷に類似した症状を示す疾患	
4	11月5日	血流障害を伴う損傷	
5	11月12日	末梢神経損傷を伴う損傷	
6	11月19日	脱臼骨折	
7	11月26日	外出血を伴う損傷	
8	12月3日	病的骨折および脱臼	
9	12月10日	意識障害を伴う損傷	
10	12月17日	J 3 後期末試験兼卒業試験	
11	12月24日	意識障害を伴う損傷	
12	1月7日	脊髄症状のある損傷	
13	1月14日	呼吸運動障害を伴う損傷	
14	1月21日	内臓損傷の合併が疑われる損傷	
15	2月4日	高エネルギー外傷	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技③		授業担当者	須藤 竜夫 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	実技室 教室	

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じ培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、認定実技試験の知識および技術の習得を目指し、卒業後の臨床においても活用できる授業を行なう。また、国家試験対策の授業も行う。

【授業全体の内容の概要】

認定実技審査要領を基に、柔道整復理論および整復法・検査法・固定法実技を行い、実技試験を実施する。国家試験対策では、過去問題を主体として基礎知識の再確認と解説を行う。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

3年次認定実技審査の合格基準に達する実技能力

【使用テキスト・参考文献・教材】

道整復学(実技編・理論編)・実習バック・厚紙副子・金属副子・綿花・鎖骨整復台・テーピング(38、50mm)・晒等

【単位認定方法】

実技試験・授業態度・出欠席によって評価する。

前期試験を合格した者のみ(60点以上) 後期兼卒業試験の受験資格を与える。

出席は授業実施時数の3分の2以上が必要とし、欠席1回につき5点減点(遅刻3回で5点減点)とする。

認定実技審査・試験点・授業態度・出欠席によって評価する。

試験点は後期試験兼卒業試験の一般問題点数で評価する。その場合、試験点7割・出席点3割(出席点に関しては1回欠席で-5点とする)(遅刻3回で5点減点)とする。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」(履修認定不可)

授業内容日程表

3年（水）前期

柔道整復実技③

担当 須藤 竜夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	ガイダンス、厚紙副子、枕子作成	実技バック（毎授業）・厚紙
2	6月10日	鎖骨骨折理論・整復法実技	鎖骨整復台・プロジェクター
3	6月17日	鎖骨骨折整復法実技・固定法実技	厚紙副子・ホワイトテープ（38mm）
4	6月24日	鎖骨骨折固定法実技、上腕骨外科頸外転型骨折理論・整復法実技	
5	7月1日	前腕骨遠位端骨折理論・整復法実技	クラーメル・プロジェクター
6	7月8日	クラーメル作成、前腕骨遠位端固定法実技	厚紙副子・金属副子・プロジェクター
7	7月15日	肋骨骨折理論・固定法実技、まとめ	晒・厚紙副子
8	7月22日	実技試験（骨折） 1	
9	7月29日	実技試験（骨折） 2	
10	8月5日	肩鎖関節脱臼理論・整復法・固定法実技	プロジェクター・ホワイトテープ（50mm）
11	8月19日	肩鎖関節脱臼理論・整復法・固定法実技	厚紙副子
12	8月26日	肘関節脱臼整復法・固定法実技	金属副子
13	9月2日	肘内障理論・整復法、まとめ	プロジェクター
14	9月9日	実技試験（脱臼） 1	
15	9月23日	実技試験（脱臼） 2	

授業内容日程表

3年（水）後期

柔道整復実技③

担当 須藤 竜夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	復習	
2	10月21日	復習	
3	10月28日	復習	
4	11月4日	国家試験対策 1	
5	11月11日	国家試験対策 2	
6	11月25日	国家試験対策 3	
7	12月2日	国家試験対策 4	
8	12月9日	国家試験対策 5	
9	12月16日	後期末試験兼卒業試験	
10	12月23日	国家試験対策 6	
11	1月6日	国家試験対策 7	
12	1月13日	国家試験対策 8	
13	1月20日	国家試験対策 9	
14	1月27日	国家試験対策 10	
15	2月3日	国家試験対策 11	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技④		授業担当者	霞 孝行 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	実技室 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る整形外科病院、接骨院での臨床（実務）経験を通じて培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、以下の内容について学習する。

認定実技審査（軟部組織損傷の検査）

柔道整復理論および臨床科目の国家試験対策

【授業全体の内容の概要】

令和2年度 認定実技審査日程に合わせて実技（軟部組織損傷の検査）を実施するが、進行および履修程度によって国家試験対策授業（柔道整復理論・臨床科目）へ移行する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

3年次認定実技審査合格基準に達する実技能力の習得

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学 理論編

柔道整復学 実技編

外科学概論

整形外科学

プリント配布

【単位認定方法】

前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。

出席は3分の2以上を必要とし、欠席は評価に反映させる。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（木）前期

柔道整復実技④

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	肩部の損傷1（肩板損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
2	6月11日	肩部の損傷2（肩板損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
3	6月18日	肩部の損傷3（上腕二頭筋長頭腱損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
4	6月25日	大腿部の損傷1（大腿四頭筋打撲）	柔道整復学・実技編、プリント
5	7月2日	大腿部の損傷2（大腿四頭筋打撲）	柔道整復学・実技編、プリント
6	7月9日	大腿部の損傷3（ハムストリングス肉離れ）	柔道整復学・実技編、プリント
7	7月16日	膝部の損傷1（側副靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
8	7月23日	膝部の損傷2（側副靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
9	7月30日	膝部の損傷3（半月板損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
10	8月6日	膝部の損傷4（半月板損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
11	8月20日	膝部の損傷5（十字靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
12	8月27日	膝部の損傷6（十字靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
13	9月3日	下腿部の損傷1（下腿三頭筋肉離れ）	柔道整復学・実技編、プリント
14	9月10日	足部損傷1（足関節外側靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（木）後期

柔道整復実技④

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	足部損傷2（足関節外側靭帯損傷）	柔道整復学・実技編、プリント
2	10月8日	下腿骨骨幹部骨折 固定法及び前期復習	柔道整復学・実技編、プリント
3	10月29日	下腿骨骨幹部骨折 固定法及び前期復習	柔道整復学・実技編、プリント
4	11月5日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
5	11月12日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
6	11月19日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
7	11月26日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
8	12月3日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
9	12月10日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
10	12月17日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
11	12月24日	国家試験対策（外科学/その他）	教科書
12	1月7日	国家試験対策（外科学）	教科書
13	1月14日	国家試験対策（外科学）	教科書
14	1月21日	国家試験対策（外科学）	教科書
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技⑤		授業担当者	原田 武彦 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

骨折、脱臼、捻挫や軟部組織の外傷の施術を業とする柔道整復師の臨床の場において、患者の中には非外傷性の患者が来所する場合がある。また外傷においても柔道整復師の業務範囲を超えた損傷も含まれることがある。これらを損傷に対して症状や所見から適切な判断と最適な治療環境を提供しなくてはならない。その為に、柔道整復術の適応とその限界をを踏まえた判断力を養うことを目的とした講義を行っていく。

【授業全体の内容の概要】

柔道整復師の施術の適応と判断や、全身状態の確認において注意すべき徴候を学習し、外傷における柔道整復術の限界や軟部組織損傷に潜んでいる内臓疾患や感染などの可能性疾患の鑑別、中枢神経系疾患の鑑別などの徴候を列挙して危険な徴候を学習して判断力を身につけられるような内容である。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

柔道整復師の適応疾患について十分に理解し、鑑別の必要のある疾患についてその種類や名称、所見について一定の知識を要する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

各講義にて資料を配布し、その資料を基にPowerPointを用いて講義を行う。

【単位認定方法】

- ① 各項目で行われる実技試験で60点以上取得する
 - ② 出席が2/3以上であること
- 上記①～②を満たした学生に単位を認定する

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（火）前期

柔道整復実技⑤

担当 原田 武彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	柔道整復術の適否 (施術の判断の必要性)	授業の資料を配布
2	6月9日	柔道整復術の適否 (適応の判断、柔道整復術非適応が疑われる症状と所見)	授業の資料を配布
3	6月16日	損傷に類似した症状を示す疾患 (内臓疾患の投影を疑う疼痛、腰痛を伴う腰痛)	授業の資料を配布
4	6月23日	損傷に類似した症状を示す疾患 (化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷と褥瘡)	授業の資料を配布
5	6月30日	血流障害を伴う損傷 (血流障害が疑われる場合の判断と対応)	授業の資料を配布
6	7月7日	血流障害を伴う損傷 (骨折、脱臼)	授業の資料を配布
7	7月14日	末梢神経総運用を伴う疾患 (末梢神経損傷が疑われる場合の判断と対応)	授業の資料を配布
8	7月21日	末梢神経損傷を伴う損傷 (骨折、脱臼、外固定に起因する場合)	授業の資料を配布
9	7月28日	脱臼骨折 (脱臼骨折が疑われる場合の判断と対応)	授業の資料を配布
10	8月4日	外出血を伴う損傷 (外出血がある場合の判断と対応)	授業の資料を配布
11	8月18日	外出血を伴う損傷 (骨折、脱臼、軟部組織損傷)	授業の資料を配布
12	8月25日	病的骨折および脱臼	授業の資料を配布
13	9月1日	意識障害を伴う損傷 (頭部外傷の症状、意識障害がみられる場合の判断と対応)	授業の資料を配布
14	9月8日	前期講義のまとめ	
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（火）後期

柔道整復実技⑤

担当 原田 武彦

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	意識障害を伴う損傷 （骨折、脱臼、軟部組織損傷）	授業の資料を配布
2	10月13日	脊髄症状のある損傷 （脊髄損傷がみられる場合の判断と対応）	授業の資料を配布
3	10月20日	脊髄症状のある損傷 （骨折、脱臼、軟部組織損傷および疾患）	授業の資料を配布
4	10月27日	呼吸運動障害を伴う損傷 （異常呼吸がみられる場合の判断と対応）	授業の資料を配布
5	11月10日	呼吸障害を伴う損傷 （骨折、脱臼、軟部組織損傷）	授業の資料を配布
6	11月17日	内臓疾患の合併が疑われる損傷 （内臓疾患が疑われる場合の判断と対応）	授業の資料を配布
7	11月24日	内臓疾患の合併が疑われる損傷 （骨折、脱臼、軟部組織損傷）	授業の資料を配布
8	12月1日	高エネルギー外傷 （高エネルギー外傷患者の判断と対応）	授業の資料を配布
9	12月8日	高エネルギー外傷 （骨折、脱臼）	授業の資料を配布
10	12月22日	試験返却・解説	
11	1月5日	通年講義のまとめ①	
12	1月12日	通年講義のまとめ②	
13	1月19日	通年講義のまとめ③	
14	1月26日	通年講義のまとめ④	
15	2月2日	通年講義のまとめ⑤	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技⑥		授業担当者	高場 彩 印
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数
				30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	204 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生次に学習した「生理学」および「一般臨床医学」の総復習をする。 ・ 国家試験合格に必要な知識・能力を習得する。 ・ 問題を解く際の技術を習得する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークブック形式のプリントを使用 <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道整復師国家試験の出題基準に対応した勉強計画を実施することができる。 ・ 国家試験合格に向けモチベーションを高め、自ら問題点を認識し解決することができる。 <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生理学 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 株式会社 南江堂 ・ 一般臨床医学 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版株式会社 <p>【単位認定方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。 ・ 出席は授業実施時数の3分の2以上が必要し、成績に反映させる。 ・ 後期兼卒業試験を合格した者のみ単位認定とする <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」</p> <p>59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>				

授業内容日程表

3年（月）前期

柔道整復実技⑥

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	生理学の基礎	教科書・プリント
2	6月8日	生理学の基礎	教科書・プリント
3	6月15日	循環の生理学	教科書・プリント
4	6月22日	循環の生理学	教科書・プリント
5	6月29日	循環の生理学	教科書・プリント
6	7月6日	呼吸の生理学	教科書・プリント
7	7月13日	呼吸の生理学	教科書・プリント
8	7月20日	尿の生成と排泄	教科書・プリント
9	7月27日	尿の生成と排泄	教科書・プリント
10	8月3日	内分泌系の機能	教科書・プリント
11	8月17日	内分泌系の機能	教科書・プリント
12	8月24日	内分泌系の機能	教科書・プリント
13	8月31日	生殖	教科書・プリント
14	9月7日	生殖	教科書・プリント
15	9月21日	試験返却・解説	

授業内容日程表

3年（月）後期

柔道整復実技⑥

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	骨の生理学	教科書・プリント
2	10月12日	体液の生理学	教科書・プリント
3	10月19日	筋肉の機能	教科書・プリント
4	11月2日	感覚の生理学	教科書・プリント
5	11月9日	感覚の生理学	教科書・プリント
6	11月16日	感覚の生理学	教科書・プリント
7	11月30日	演習問題	教科書・プリント
8	12月7日	演習問題	教科書・プリント
9	12月14日	後期末試験兼卒業試験	
10	12月21日	一般臨床医学（各論）対策	教科書・プリント
11	1月4日	一般臨床医学（各論）対策	教科書・プリント
12	1月18日	一般臨床医学（各論）対策	教科書・プリント
13	1月25日	演習問題	教科書・プリント
14	2月1日	演習問題	教科書・プリント
15	2月9日	演習問題	教科書・プリント

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技⑦		授業担当者	霞 孝行	印
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

国家試験出題科目中の柔道整復理論を中心に試験対策を行う。

【授業全体の内容の概要】

国家試験出題問題を参考に柔道整復理論（総論・各論）についてすでに1・2年で得た知識を整理し、出題問題に合わせて考えられるようにすることが目的。

整形外科学および外科学概論については、履修期間で理解できていない内容を含めて必要な知識の習得と整理を行う。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

後期試験および卒業試験において所定の成績が修められるレベルの知識習得が必要。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学 理論編

その他（資料配布）

【単位認定方法】

- ・ 前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。
- ・ 出席は授業実施時数の3分の2以上が必要し、成績に反映させる。
- ・ 後期兼卒業試験を合格した者のみ単位認定とする

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（月）前期

柔道整復実技⑦

担当 霞 孝行

No.	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	柔道整復理論 頭部・体幹（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
2	6月8日	柔道整復理論 頭部・体幹（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
3	6月15日	柔道整復理論 頭部・体幹（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
4	6月22日	柔道整復理論 頭部・体幹（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
5	6月29日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
6	7月6日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
7	7月13日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
8	7月20日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
9	7月27日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
10	8月3日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
11	8月17日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
12	8月24日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
13	8月31日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
14	9月7日	柔道整復理論 上肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
15	9月21日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（月）後期

柔道整復実技⑦

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
2	10月12日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
3	10月19日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
4	11月2日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
5	11月9日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
6	11月16日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
7	11月30日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
8	12月7日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
9	12月14日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
10	12月21日	柔道整復理論 下肢（骨折・脱臼・軟損）	柔道整復学・理論編
11	1月4日	柔道整復理論 総論	柔道整復学・理論編
12	1月18日	柔道整復理論 総論	柔道整復学・理論編
13	1月25日	柔道整復理論 総論	柔道整復学・理論編
14	2月8日	試験返却・試験解説	
15	2月9日	※月曜日調整日 2/9（火）授業あり	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技⑧		授業担当者	高場 彩 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	204 教室	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生次に学習した「解剖学」および「一般臨床医学」の総復習をする。 ・ 国家試験合格に必要な知識・能力を習得する。 ・ 問題を解く際の技術を習得する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークブック形式のプリントを使用 <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道整復師国家試験の出題基準に対応した勉強計画を実施することができる。 ・ 国家試験合格に向けモチベーションを高め、自ら問題点を認識し解決することができる。 <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版株式会社 ・ 一般臨床医学 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版株式会社 <p>【単位認定方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。 ・ 出席は授業実施時数の3分の2以上が必要し、成績に反映させる。 ・ 後期兼卒業試験を合格した者のみ単位認定とする <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」</p> <p>59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

3年（火）前期

柔道整復実技⑧

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	内蔵器（肝臓）	教科書・プリント
2	6月9日	呼吸器	教科書・プリント
3	6月16日	呼吸器	教科書・プリント
4	6月23日	泌尿器	教科書・プリント
5	6月30日	泌尿器	教科書・プリント
6	7月7日	泌尿器	教科書・プリント
7	7月14日	生殖器	教科書・プリント
8	7月21日	生殖器	教科書・プリント
9	7月28日	生殖器	教科書・プリント
10	8月4日	生殖器	教科書・プリント
11	8月18日	内分泌器	教科書・プリント
12	8月25日	内分泌器	教科書・プリント
13	9月1日	演習問題	教科書・プリント
14	9月8日	演習問題	教科書・プリント
15	9月22日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（火）後期

柔道整復実技⑧

担当 高場 彩

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	感覚器	教科書・プリント
2	10月13日	感覚器	教科書・プリント
3	10月20日	感覚器	教科書・プリント
4	10月27日	体表解剖	教科書・プリント
5	11月10日	一般臨床医学 対策	教科書・プリント
6	11月17日	一般臨床医学 対策	教科書・プリント
7	11月24日	一般臨床医学 対策	教科書・プリント
8	12月1日	一般臨床医学 対策	教科書・プリント
9	12月8日	一般臨床医学 対策	教科書・プリント
10	12月22日	演習問題	教科書・プリント
11	1月5日	演習問題	教科書・プリント
12	1月12日	演習問題	教科書・プリント
13	1月19日	演習問題	教科書・プリント
14	1月26日	演習問題	教科書・プリント
15	2月2日	演習問題	教科書・プリント

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	柔道整復実技⑨		授業担当者	霞 孝行 印	
配当年次・時期	3 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室
<p>【授業の目的・ねらい】 国家試験出題科目中の臨床科目を中心に試験対策を行う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 整形外科学および外科学概論については、履修期間で理解できていない内容を含めて必要な知識の習得と整理を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 国家試験出題範囲にある臨床科目について、過去の出題傾向を踏まえながら理解できる。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】 整形外科学・外科学 その他（資料配布）</p> <p>【単位認定方法】 前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。 出席は3分の2以上を必要とし、欠席は評価に反映させる。 後期兼卒業試験を合格した者のみ単位認定とする。</p> <p>【成績評価方法・基準】 授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

授業内容日程表

3年（木）前期

柔道整復実技⑨

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	整形外科学（診察法・検査法・治療法）	整形外科学
2	6月11日	整形外科学（骨系統疾患）	整形外科学
3	6月18日	整形外科学（骨系統疾患）	整形外科学
4	6月25日	整形外科学（感染性疾患）	整形外科学
5	7月2日	整形外科学（非感染性疾患）	整形外科学
6	7月9日	整形外科学（非感染性疾患）	整形外科学
7	7月16日	整形外科学（筋神経疾患）	整形外科学
8	7月23日	整形外科学（筋神経疾患）	整形外科学
9	7月30日	整形外科学（骨腫瘍）	整形外科学
10	8月6日	整形外科学（骨腫瘍）	整形外科学
11	8月20日	整形外科学（骨腫瘍）	整形外科学
12	8月27日	整形外科学（骨端症・循環障害）	整形外科学
13	9月3日	整形外科学（四肢・体幹の障害）	整形外科学
14	9月10日	整形外科学（四肢・体幹の障害）	整形外科学
15	9月24日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（木）後期

柔道整復実技⑨

担当 霞 孝行

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	整形外科学（四肢・体幹の障害）	整形外科学
2	10月8日	整形外科学（四肢・体幹の障害）	整形外科学
3	10月29日	外科学（損傷・熱傷）	外科学
4	11月5日	外科学（損傷・熱傷）	外科学
5	11月12日	外科学（炎症・感染症）	外科学
6	11月19日	外科学（炎症・感染症）	外科学
7	11月26日	外科学（ショック）	外科学
8	12月3日	外科学（ショック）	外科学
9	12月10日	外科学（輸液・輸血）	外科学
10	12月17日	外科学（手術・縫合）	外科学
11	12月24日	外科学（麻酔）	外科学
12	1月7日	外科学（移植・心肺蘇生）	外科学
13	1月14日	外科学（頭部外傷）	外科学
14	1月21日	外科学（胸腹部外傷）	外科学
15	2月4日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復学 7		授業担当者	関口 将一 印	
配当年次・時期	3 学年 前期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204 教室

【授業の目的・ねらい】

長年に渡る接骨院での臨床（実務）経験を通じて培った柔道整復術に関する技術・知識を土台に授業を展開し、以下の内容について学習する。

- ①柔道整復師と機能訓練指導について学ぶ。
- ②競技者の外傷予防について学ぶ。
- ③高齢者の特性について学ぶ。
- ④競技者の特性について学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- ①教科書、配布資料の内容を中心に行う。
- ②機能訓練がどのように行われているのか、指導方法を実技として行う。
- ③競技者に対してのメディカルチェックの仕方やアプローチの仕方を実技で学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・機能訓練指導員としての基礎知識として、高齢者の身体的特性や機能訓練の安全な実施方法を習得する。
- ・競技者の特性を理解し、メディカルチェックやケアをする技術を習得する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①教科書 競技者の外傷予防
- ②教科書 柔道整復師と機能訓練指導
- ③配布資料

【単位認定方法】

- ①定期試験 60 点以上
 - ②出席が授業実施時数の 3 分の 2 以上であること
- 上記の全てを満たす学生に単位を認定する

【成績評価方法・基準】

授業日数の 3 分の 2 以上の出席。

- 80 点以上の評価点に「A」、70～79 点の評価点に「B」、60～69 点の評価点に「C」
59 点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（金）前期

臨床柔道整復学Ⅶ

担当 関口 将一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	認知症の理解	配布資料
2	6月12日	柔道整復師と介護保険	配布資料
3	6月19日	介護保険制度	配布資料
4	6月26日	介護の過程、高齢者介護とICF	配布資料
5	7月3日	介護予防と機能訓練の向上、ロコモティブシンドローム	配布資料
6	7月10日	機能訓練指導員と機能訓練	配布資料
7	7月17日	機能訓練で提供する運動と要点（座学、実技）	配布資料、動ける格好
8	7月24日	競技者の外傷予防（概論）	配布資料
9	7月31日	競技者の外傷予防（メディカルチェック、コンディショニング）	配布資料
10	8月7日	アイシングの実際、ストレッチについて	配布資料
11	8月21日	競技者に対するストレッチ（実技）	配布資料、動ける格好
12	8月28日	外傷予防トレーニング（実技）	配布資料、動ける格好
13	9月4日	競技復帰のためのトレーニング（実技）	配布資料、動ける格好
14	9月11日	投球障害について	配布資料
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授 業 要 項

2020 年度

柔道整復学科

科目名	臨床柔道整復実技⑥		授業担当者	霞 孝行/岡村 忠彦 印	
配当年次・時期	3 学年 前期	時間数 (単位数)	60 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	204/柔道場 教室

【授業の目的・ねらい】

認定実技審査項目に準じる実技内容に加え、教科書内で取り上げている整復法や検査法固定法および後療法などについて実技を行う。

柔道においても同様に認定実技審査に準じた内容の教授とともに初段程度の素養を身に着けるべく指導を行う。

【授業全体の内容の概要】

前期：認定実技審査内容を中心に当該科目の進行状況に応じて柔道整復実技・柔道実技の指導・練習を行う。

後期：認定実技科目以外の内容についても国家試験に向け実技を中心に理解を深める。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

骨折や脱臼治療の一般原則を踏まえ各整復法・固定法を実施することで、それらを通し一般原則に立ち返ることで基本と応用の在り方を実践し理解する。

【使用テキスト・参考文献・教材】

柔道整復学（理論編・実技編）

配布資料

【単位認定方法】

前期試験、後期兼卒業試験の成績をもって評価とする。

出席は3分の2以上を必要とし、欠席は評価に反映させる。

【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

授業内容日程表

3年（金）前期

臨床柔道整復実技⑥

担当 霞/岡村

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
2	6月12日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
3	6月19日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
4	6月26日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
5	7月3日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
6	7月10日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
7	7月17日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
8	7月24日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
9	7月31日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
10	8月7日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
11	8月21日	上肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書 プリント
12	8月28日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
13	9月4日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
14	9月11日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
15	9月25日	試験返却・試験解説	

授業内容日程表

3年（金）後期

臨床柔道整復実技⑥

担当 霞/岡村

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
2	10月9日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
3	10月16日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
4	10月23日	礼法・受身・投の形・約束乱取	柔道衣 教科書 プリント
5	11月6日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
6	11月13日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
7	11月20日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
8	11月27日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
9	12月4日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
10	12月11日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
11	12月18日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
12	12月25日	下肢（骨折・脱臼・軟損）整復法・固定法・検査法	教科書・プリント
13	1月8日	問題演習	教科書・プリント
14	1月15日	問題演習	教科書・プリント
15	2月5日	J3卒業発表	

科目名	臨床実習 3		授業担当者	霞 孝行 印
履修学年・履修期	3年・通年	時間数 (単位数)	45 (1)	使用教室 臨床実習施設

[実習の目的]

柔道整復師として臨床における実践能力および保険の仕組みに関する知識を習得し患者との適切な対応を学び、施術者としての責任と自覚を養う。
2年次より開始した学外での救護活動による実習に加え、施術録や紹介状についても学ぶ。

目的：業務を理解し自主的に行動する。

レセプト、紹介状などの基本的理解。

施術録の記載について理解する。

[実習の方法]

柔道整復師の施術に関し座学および実技・演習等で教授される内容を基に、実際の臨床現場において実習指導者の下で柔道整復師の一般的業務並びに基礎的・応用的実習を行う。

救護活動を通して実際のケガや対応について実践し学ぶ。

施術録や紹介状の記載、療養費の仕組みについて座学で学んだ内容をもとに実際の療養費請求の仕組みなどについても言及する。

[評価]

業務範囲や保険制度を理解している。

診療録を理解できる。

医接連携に基づく紹介・返書・対応を理解する。

患者の背景や社会環境に配慮できる。

生涯学習に取り組める。

以上の到達目標について評価し単位を認定する。